



診療科のご案内





基本理念

当センターは、高齢者の心身の特性に応じた適切な医療の提供、臨床と研究の連携、高齢者の QOL を維持・向上させるための研究を通じて、高齢者の健康増進、健康長寿の実現を目指し、大都市東京における超高齢社会の都市モデルの創造の一翼を担います。

法人の理念（ミッション）

当センターでは、以下のビジョンの下、その実現へ向けた取り組みを行っております。

[法人のビジョン]	[ビジョン実現への戦略]
高齢者の特性に配慮した医療の確立と提供 <ul style="list-style-type: none">・ 医療モデルの確立と普及・ 医療の標準化、治療法の開発	<ul style="list-style-type: none">● 重点医療の提供● 急性期医療の提供● 地域連携の推進● 救急医療の充実
高齢者医療・介護を支える研究の推進 <ul style="list-style-type: none">・ 研究成果を活かした高齢者の心身の特性に応じた医療の提供・ 高齢者の健康増進と健康長寿の実現	<ul style="list-style-type: none">● 老化のメカニズムと制御に関する研究● 重点医療に寄与する研究● 高齢者の健康長寿と福祉に関する研究● 産・学・公の連携
高齢者医療・介護を支える専門人材の育成 <ul style="list-style-type: none">・ 法人職員の人材育成・ 地域の医療・介護を支える人材の育成	<ul style="list-style-type: none">● 高齢者の疾病特性に精通した医師、看護師、医療技術者の育成● 老年学・老年医学をリードする研究者の育成
法人事業を維持・発展させる経営基盤の確立 <ul style="list-style-type: none">・ 効率的な運営管理体制の確立・ 自立的経営の実現	<ul style="list-style-type: none">● 診療・研究体制の弾力的な運用● 安定した収入の確保、適切なコスト管理● 都民のニーズの変化に対応した事業の実施



「患者さんにご家族に喜ばれる医療」の実現



1) ご挨拶	2
2) 施設概要	5
3) 紹介予約方法／受診について	6
4) 検査予約システムのご案内	8
5) 医療実績（令和5年度）	10
6) 診療科のご案内	11
7) 医療連携係／連携医制度のご案内	44
8) 施設のご案内	45

1 ご挨拶

センター長挨拶

東京都健康長寿医療センター病院は、約 150 名の常勤医師、約 90 名の非常勤医師、約 500 名の看護師、約 170 名の医療技術者など 1,000 名をこえる職員で運営している急性期病院です。また、地域の多数のボランティアの皆様にも支えて頂いています。

当センターはご高齢の方に多い心血管医療、がん医療、認知症医療、糖尿病治療を重点医療としておりますが、その他の疾患についても優秀なスタッフと十分な診療設備を備え、救急医療にも力を入れています。小児科、産科関連疾患を除くすべての疾患の診療が行えます。

2013（平成 25）年 6 月に新しい病院に移転いたしました。移転に際し PET-CT、320 列 CT、3 テスラーMRI、ハイブリッド手術室など最新の設備と技術の導入をいたしました。下肢難治性潰瘍に対する血管再生療法、遺伝子診断に基づく医療など以前から最先端医療も手掛けておりましたが、新病院への移転を機にさらに種々の分野におきまして医学の進歩を取り入れた最新の医療を提供させて頂いています。内視鏡手技やカテーテル手技を駆使した低侵襲手術の導入にも積極的に取り組み、豊富な経験を生かした専門性の高い内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）や超音波内視鏡下穿刺術（EUS-FNA）、胸部・腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療なども最近症例数が飛躍的に増加しています。利用しやすい外来配置、プライバシーの保持にも十分に配慮した広々とした病室など療養環境もご満足いただけるものと思っております。

当センターは、それぞれの患者さん、ご家族の方々への十分な説明に基づく同意を頂いた上で、（1）質の高い医療、（2）退院後の " 生活の質 " を考慮した医療、（3）地域の医療機関・介護施設との連携した一貫した医療を提供いたします。退院に際しましても、退院後の生活が円滑に行えるように最大限の支援をさせていただきます。

当センターに受診を希望される場合は、是非かかりつけの先生の紹介状をご持参ください。紹介状を頂くことにより、病気の状態や今までの経過が良くわかり、無駄のない適切な医療が迅速に行えます。

ご高齢の方、また中年期の方々が活動的な高齢期を迎えられるように、日進月歩の医学・医療の進歩を取り入れ、安心かつ安全な医療を提供させて頂こうとスタッフ一同真摯な努力を積み重ねております。より多くの方々が、当センターをご利用下さるようお願い申し上げます。

2024年4月1日より着任

センター長

秋下 雅弘





副院長（医療連携担当） 岩田 淳

日頃より診療連携頂いている先生方には大変御世話になっております。この度、新たに地域連携担当をさせて頂くこととなった副院長の岩田淳と申します。

私どもの病院はご存じの通り高齢者診療を得意とさせて頂いています。高齢者は慢性経過の生活習慣病に加え、様々な疾患をお持ちになりながら生活されている方が多い事はご存じの通りです。

そのような方々は日頃の診療はご自宅から近い連携医の先生方の御施設で幅広く診て頂く事が重要と考えますが、ひとたび救急疾患に罹患され、今までとは異なる疾患の兆しが現れた際には是非当院を御紹介いただき、専門的な医療を受けて頂きたく存じます。当院での医療が完了した暁には速やかに先生方の御施設にお戻り頂き、診療連携の関係を保ちながら、それまでの生活を続けて頂けるようにしていきたいと存じます。

是非、緊密な連携を取らせていただき、先生方と共に地域の医療に貢献していきたいと存じます。今後とも御指導の程、どうぞ宜しくお願い致します。何か御意見、ご要望ございましたらご遠慮なく医療連携係までご連絡賜れば幸いです。



副院長 原田 和昌

連携医の先生方におかれましては、いつも患者さまをご紹介頂き有難うございます。

当センターは、令和6年4月より秋下センター長が東京大学から来られ、新体制でのスタートを切りました。フレイルなど老年病分野の教育、研究がさらに盛んとなり、新型コロナ前のように老年学公開講座や院内講演会を数多くご案内できることと存じます。

当センターでは4大重点医療である血管病医療、がん医療、認知症医療、糖尿病医療はもちろんのこと、これまでどおり高齢者特有の多くの疾患に対応した専門医療を提供しております。私の専門の循環器救急に関しては、東京都CCUネットワーク・大動脈スーパーネットワークにて24時間365日心臓血管救急患者を受け入れてきましたが、以前より救急隊員の方に「センターはファーストチョイスであり、ラストチョイスです」と言われてきました。その信頼を裏切ることのないようこれからも頑張っていきたいと思います。東京都脳卒中救急搬送体制でも存在感を発揮しております。がん医療は抗がん剤治療、内視鏡治療、外科治療、放射線治療、緩和医療すべての領域でレベルアップし、高齢者にやさしい低侵襲な検査、治療を行っています。

この度、東京都から地域医療支援病院の承認を受けましたが、連携医の先生方や介護施設様との連携により、全ての高齢患者さまが退院後も生活が円滑に行えるように最大限の支援をさせて頂きたいと思っております。これまでどおり、患者さまの積極的な紹介、逆紹介をお願い申し上げます。



副院長 安樂 真樹

4月より副院長（外科系）を拝命しました安樂真樹（あんらくまさき）と申します。
地域の医療機関、療養施設の先生方、皆様と顔の見える連携を通して、あたたかな医療を提供できる外科でありたいと考えております。端的には患者さん、ご家族への敬意と、親切な心で接する姿勢です。

日進月歩の医療において高齢者医療も例外ではなく、当センターにおいても、より低侵襲で体に負担の少ない手術を積極的に取り入れてきました。各外科系診療科の項で、特徴ある手術診療をご紹介しますので、ぜひご参照ください。

ますます高齢化が進む中、ご家庭ご家族のサポート状況を含め、よりきめ細やかな把握とフォローアップが大切であることは、地域医療を担っておられる先生方が日々実感されているところと拝察いたします。当センターの特色の一つでもある包括的なフレイル評価を術前から生かしつつ、長期的にも患者さんやご家族にとって妥当性が高い治療選択肢をご提案できるよう努めてまいります。

何卒よろしくお願い申し上げます。



副院長 加納 江利子

日頃より、地域医療の発展と患者様の健康維持にご尽力いただき、誠にありがとうございます。

高齢者医療・看護においては、患者様の生活背景や価値観を尊重し、個別化されたケアが重要となります。看護師は、患者様の日常生活の援助を通じて、医療と生活の橋渡し役としての役割を担っています。また、看護師の教育・研修にも力を入れ、最新の知識と技術を持った看護師が質の高いケアを提供できるよう努めています。

当院には、皮膚排泄ケアや摂食嚥下障害看護など、24名の認定看護師がおり、専門的なケアを提供しています。さらに、老人専門看護師やがん専門看護師も在籍しており、患者様の多様なニーズに対応できる体制を整えています。これらの看護師は、地域の医療者に対しても相談や出前勉強会を提供し、地域医療の質向上に寄与していきたいと考えております。

高齢者がその人らしく生きることを支えるために、看護実践を地域につなぐことは、私たちの重要な使命です。病院で培った高度な看護技術と知識を地域の医療者と共有し、訪問看護や在宅医療の場でも一貫した高水準のケアを提供できるよう努めてまいります。

これからも、皆様との協力関係を大切に、地域医療の発展に寄与してまいりたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2 施設概要

●名称

東京都健康長寿医療センター

●所在地

〒173-0015 東京都板橋区栄町35-2

●電話番号

03-3964-1141（代表）／FAX 03-3964-1392（連携係直通）

●開設者

理事長 鳥羽 研二

●開設年月日

平成21年4月1日

●センター長

秋下 雅弘

●職員数

医師122人 歯科医師3人 看護師477人 医療技術184人 その他98人（令和6年4月1日現在）

●診療規模

医療法定床 550床（一般 520床 精神 30床）

●外来患者数

724.7人/日（令和5年度）

●平均在院日数

12.0日（令和5年度）

●診療科目

【内科系】

総合内科・高齡診療科、膠原病・リウマチ科、腎臓内科・透析科、糖尿病・代謝・内分泌内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器・内視鏡内科、脳神経内科、血液内科、感染症内科、緩和ケア内科、精神科

【外科系】

外科、血管外科、心臓血管外科、脳神経外科、呼吸器外科、整形・脊椎外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科

【その他部門】

リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、救急科

【専門外来】

もの忘れ外来、さわやか（排尿）ケア外来、骨粗鬆症外来、補聴器外来、嚥下外来、ポリファーマシー外来、在宅支援外来、フレイル外来など

* 診療科以外にも、臨床検査科、病理診断科を設置

* 下線各科は、標榜診療科以外の名称

●救急体制

東京都指定二次医療機関（全夜間・休日救急）

東京都CCUネットワーク・急性大動脈瘤スーパーネットワーク・東京都脳卒中急性期医療機関

3 紹介予約方法／受診について

当センターでは、高度専門医療・急性期治療を一人でも多くの患者さんにお受けいただけるよう救急科を除く全診療科において「紹介予約制」を原則としております。当センターへ患者さんをご紹介いただく際は、事前に受診予約をお取りいただき、かかりつけの先生からの紹介状をお持ちのうえ、受診いただくようお願いいたします。

なお、当センターでの治療後、病状が安定した患者さんには、当センター医師の判断のもと、紹介元のかかりつけ医へご紹介させていただきます。（かかりつけ医をお持ちでない患者さんは「かかりつけ医紹介窓口」にてご自宅近くの連携医の先生へご紹介させていただきます。）

その後、患者さんのご病状に変化があった場合には「かかりつけ医」と当センター医師が連携して治療にあたらせていただきます。

●通常の外来予約

ご予約の際は、患者さんのお名前・生年月日・お電話番号をお知らせください。当日のご予約はお取りしておりませんのでご了承ください。ご病状により、お早めの受診をご希望の場合には、医療機関より医療連携係までご相談ください。できる限りご要望に添えるよう調整させていただきます。（患者さん個人からのご相談はお受け付けしておりません。）



[外来予約室専用電話] 03-3964-4890 (平日 9:00 ~ 17:00)

[医療連携係直通電話] 03-3579-6963 (平日 9:00 ~ 17:00)

●緊急受診・緊急入院のご相談

原則として、各診療科の連携当番医が直接お電話をお受けいたします。



代表番号 (03-3964-1141) におかけのうえ、
電話交換手へ

『緊急受診（入院）の依頼です。〇〇科の連携当番医につないでください』
とお話してください。

医師が直接お電話で病状等のお聞き取りをいたします。

※夜間・休日などの予約外に緊急受診をご希望の場合、必ず事前に代表電話へご連絡ください。

●入院（緊急を除く）・転院のご相談

まずは医療連携係までお電話のうえ、FAXにて診療情報提供書をお送りください。連携当番医へ確認のうえ、できる限り速やかにお返事いたします。



[医療連携係直通電話] 03-3579-6963 (平日 9:00 ~ 17:00)

[医療連携係直通 FAX] 03-3964-1392

●脳卒中ホットライン

脳卒中の発症が疑われる場合にご活用ください。

脳神経外科医（夜間・休日は神経系当直医）が直接お電話をお受けいたします。



[脳卒中ホットライン] 080-4116-1141

●ご提出いただく紹介状（診療情報提供書）

様式は問いません。普段からご利用されている紹介状（診療情報提供書）でお受けいたします。ご用意がない場合には、紹介状様式（複写式）をお送りいたしますので、ご用意の際は医療連携係まで必要部数をお申し付けください。



[医療連携係直通電話] 03-3579-6963（平日 9:00～17:00）

●受診時に必要なお持ち物

項目	紹介状	健康保険証	後期高齢者 医療被保険者証	介護認定証	難病等 公費負担医療証
はじめての 受診するとき ※他の診療科を 受診する際も同様	✓ 前回受診時に 次回受診予約のある 場合は不要	✓	✓	✓	✓
前回受診から 3か月以上経過 しているとき	✓ 前回受診時に 次回受診予約のある 場合は不要	✓	✓	✓	✓
毎月最初に 受診するとき	✗	✓	✓	✓	✓

●紹介状（診療情報提供書）持参のお願い

初診の際は、かかりつけの先生の紹介状をお持ちのうえ、受付にお越しください。紹介状をお持ちでない場合には、選定療養費（初診時 医科 7,700 円 / 歯科 5,500 円、再診時 医科 3,300 円 / 歯科 2,090 円）をご負担いただきます。

当センターは、地域における急性期医療の基幹病院でありたいと考えております。そのため、慢性的な病気や普段の健康管理はかかりつけの医療機関にお願いし、専門的な検査や診察・入院が必要な治療を当センターが担当しております。

かかりつけの先生からの紹介状は、患者さんを知る有効な診療情報となりますので、できる限りお持ちくださいようお願い申し上げます。

ただし、緊急その他やむを得ない事情により、他の保険医療機関からの紹介によらず来院した場合には、この限りではありません。

4 検査予約システムのご案内

当センターでは、オンラインで 24 時間ご利用が可能な「検査予約システム (C@RNA Connect)」を導入しております。これにより、いつでも・どこからでも専用サイトを通じて当センターの検査予約等が可能となります。

新規にご登録をご希望される場合には、当センターホームページより登録用紙をダウンロードのうえ、医療連携係宛にお送りください。

C@RNAConnect のご案内・ダウンロードはこちら →



●主なサービス

- 放射線検査
CT 検査 / MRI 検査 / アイソトープ検査 / PET 検査 / 骨密度測定
- 生理検査
- 超音波検査 / ホルター心電図 / 24 時間自由行動下血圧測定 / 筋電図
- 上部内視鏡検査
- 診察予約 ≪ 総合内科、高齢診療科、膠原病・リウマチ科、腎臓内科、糖尿病・代謝・内分泌内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、脳神経内科、血液内科・化学療法科、精神科、外科、血管外科、心臓血管外科、脳神経外科、呼吸器外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線治療科、栄養指導 ≫

●ご利用の流れ



●ご利用のメリット

- 希望する検査内容の選択、患者情報などの入力だけで検査予約をお取りいただけます。
- お電話でお待たせすることがありません。
- 曜日や時間に関係なく、ご利用いただけます。
- 予約入力した情報で診療情報提供書を作成することができます。
- 次回以降のご予約は、以前の基本情報を引き継いでご利用いただけます。
- 予約票や同意書のプリントができます。
- ご利用に必要な費用は一切かかりません。(インターネット利用料は除く)

●予約方法

- お電話または検査予約システム（P.8）にてご希望の検査予約をお取りください。
- 患者さんへ紹介状（診療情報提供書）をお渡しください。（検査紹介である旨お書きください）

●検査結果

- CT / MRI は、検査レポートを作成し、後日 CD と共にご紹介元の医療機関にご郵送いたします。
- その他の検査は、ご紹介元の医療機関に返書をご郵送いたします。

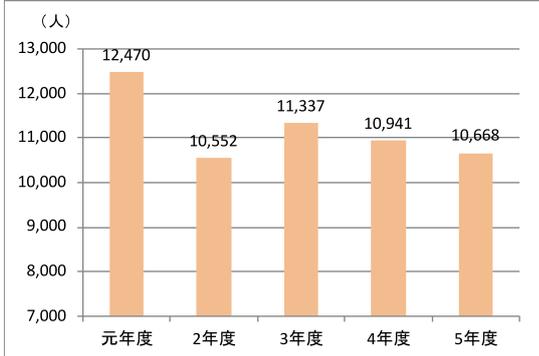
●患者さんにお持ちいただきたいもの

- 健康保険証、後期高齢者医療被保険者証、難病等公費負担などの医療証（お持ちの方）
- 紹介状（診療情報提供書）
- 診察券（過去に当センターを受診されたことがある方）

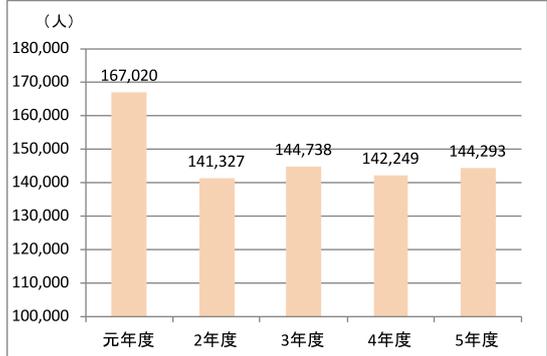


5 医療実績 (令和5年度)

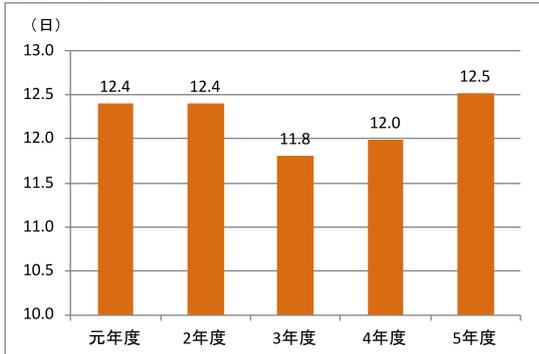
① 新入院患者数



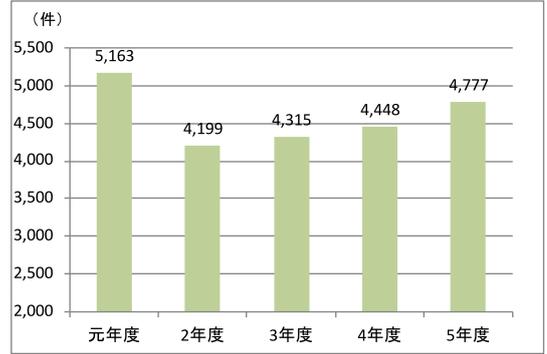
② 延入院患者数



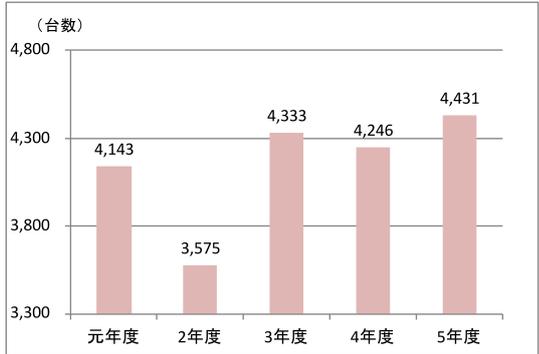
③ 平均在院日数



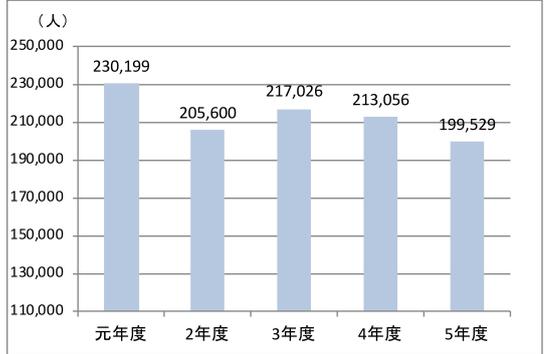
④ 手術件数



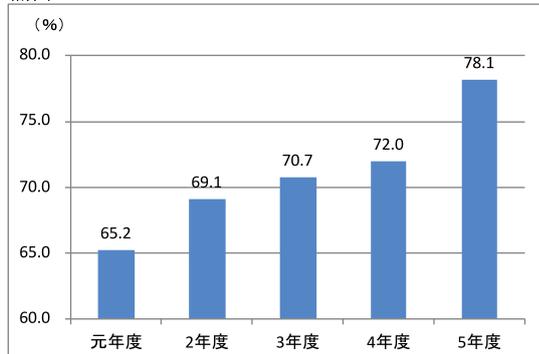
救急車受入台数



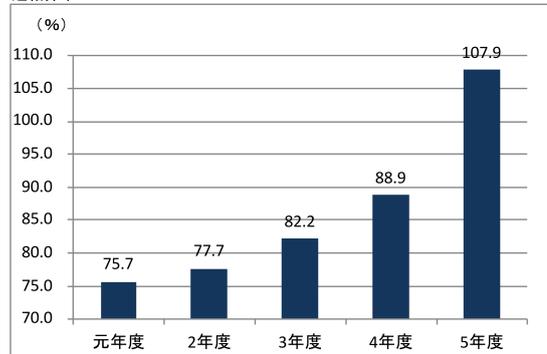
⑥ 延外来患者数



紹介率



逆紹介率



6 診療科のご案内

内科系	総合内科／高齢診療科	12
	膠原病・リウマチ科	13
	腎臓内科・透析科	14
	糖尿病・代謝・内分泌内科	15
	循環器内科	16
	呼吸器内科	18
	消化器・内視鏡内科	19
	脳神経内科／脳卒中科	20
	血液内科	21
	感染症内科	22
	精神科	23
	緩和ケア内科	24
	外科系	外科
心臓血管外科		26
血管外科		27
脳神経外科／脳血管内治療科		28
呼吸器外科		29
整形・脊椎外科		30
皮膚科		31
泌尿器科		32
眼科		33
耳鼻咽喉科		34
歯科口腔外科		35
救急科		36
中央診療部門		麻酔科
	リハビリテーション科	38
	放射線治療科	39
	病理診断科	40
	臨床検査科	41
研修医	放射線診断科	42
	臨床研修医/専門臨床研修医	43

総合内科 / 高齢診療科

スタッフ紹介



氏名 岩切 理歌
(いわきり りか)

役職 部長

出身 日本医科大学 (平成元年卒)

資格 ・日本内科学会総合内科専門医・指導医
・日本老年医学会老年科専門医・指導医
・日本血液学会専門医



氏名 大川 庭熙
(おおかわ ていき)

役職 医長

出身 東京大学 (平成 21 年卒)

資格 ・日本内科学会認定医
・日本循環器学会専門医

常勤医

村野 陽子 (むらの ようこ)

片岡 愛 (かたおか あい)

濱谷 広頌 (はまや ひろのぶ)

中山 智博 (なかやま ともひろ)

【診療科紹介】

当科では加齢に伴う臓器の変化を考慮しながら、次のような診療に力を入れております。

- 症状の原因について精査し、専門性の高い治療が必要な場合には専門診療科にお繋ぎします。
- 肺炎や尿路感染症、脱水症など、高齢者に多い疾患の治療を行います。
- 受診契機となった症状が内服薬と関連していないか確認します (ポリファーマシー対策)。
- 心身の活力について評価し、健康寿命を延ばす取り組みを行います (フレイル予防対策)。
- 医療や介護について正確な情報を提供し、多職種で協働しながら療養環境を調整します。

当科外来患者さんの受診理由は、食思不振・体重減少が約 20%、また、ふらつき感、慢性疼痛、うつ、筋力低下、物忘れ、倦怠感など、どこの臓器に問題があるのかわからないような症状 (老年症候群) が約 50%です。老年症候群は、治療すべき疾患だけでなく、内服中の薬剤が原因のこともあります。また、加齢に伴う変化と推測され、上手に付き合っていくしかない場合もあります。そのような場合にはフレイルの評価を行い、快適なシニアライフを送るための指導をさせていただきます。

【対象疾患】

- ①発熱、痛み、摂取不良など急性の症状
- ②老年症候群：めまい・ふらつき、食欲低下、体重減少、疲労感、筋力低下、嚥下機能障害など

③ポリファーマシー

内服中の薬による有害事象が出ていないか確認すると共に、服薬アドヒアランスの向上を目指します。

④フレイル

体重減少、倦怠感、活動量、握力、歩行速度、認知機能などを評価し、結果に応じて運動指導、栄養指導、社会参加への提案を行い、要介護状態に陥らない対策を立てます。

⑤在宅療養支援

嚥下機能の低下に応じた栄養指導 (調理法も含め) を行い、介護が必要になった場合には、在宅担当看護師や医療ソーシャルワーカーが地域のケアマネージャーと連絡を取りながら生活環境の調整を行います。

【ご紹介のポイント】

高齢者においては老年症候群を呈する患者が多く、どこの専門診療科に紹介すべきかお迷いになることも多いかと存じます。総合内科におきましては、初診時に可能な限り血液検査や画像検査を行います。症状が強く早急な治療介入が必要な場合には、初診当日に専門診療科にご紹介致します。

総合内科外来と高齢診療科外来の診療内容に大きな違いはありませんが、認知生活機能の評価やフレイル評価が目的の場合には、高齢診療科にご紹介いただけますと幸いに存じます。

当日受診を希望される場合には、医療連携係までご連絡下さい。ご病状によっては、救急外来にご案内いたします。

当科の最新情報はホームページでご確認ください。



膠原病・リウマチ科

スタッフ紹介



氏名 久保 かなえ
(くぼ かなえ)
役職 部長
出身 神戸大学 (平成7年卒)
資格 ・日本内科学会総合内科専門医
・日本リウマチ学会リウマチ専門医、指導医、評議員
・日本腎臓学会腎臓専門医 他

常勤医

小林 聖未 (こばやし さとみ)

非常勤医

杉原 毅彦 (すぎはら たかひこ)

瀬理 祐 (せり ゆう)

坂内 穎 (ばんない えい)

【診療科紹介】

膠原病は関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、皮膚筋炎・多発性筋炎、強皮症、シェーグレン症候群などを総称した疾患群で、代表的な自己免疫疾患です。疾患によって特徴的な自己抗体を認め、全身の様々な臓器に疾患特有の臓器障害が起きます。リウマチ性疾患は関節、筋、腱などの骨格系の症状を伴う疾患群で、関節リウマチを代表格として、リウマチ性多発筋痛症、乾癬などの皮膚病に伴う関節炎を含む脊椎関節炎、痛風・偽痛風の結晶性関節炎など多くの疾患を含みます。当科では膠原病や血管炎を含む自己免疫疾患、リウマチ性疾患およびその類縁疾患と言われる多くの疾患を対象とし、幅広い年齢に発症する様々な臓器障害に対して他の専門科と連携して診断治療を行っています。多くが慢性疾患ですので、長期的な治療を必要とします。当科では若い方から高齢の方までライフステージを考えた診療を心掛けるとともに、各年齢特有の病態や合併症を考慮した治療方針を目標にしています。当院では特に高齢者の診療を特色としています。当科でも高齢者の身体機能・認知機能を考慮し、最適化した治療を心掛けています。関節リウマチのように発症年齢が高齢にシフトしつつある疾患や、一部の血管炎のように好発年齢が高齢である疾患があるため、多くの高齢患者さんの診療を行っており、高齢者特有の問題を考慮しながら、当科他科での専門診療のみならず多職種での介入を行っています。

【対象疾患】

関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、皮膚筋炎・多発性筋炎、全身性強皮症、シェーグレン症候群、混合性結合組織病、抗リン脂質抗体症候群、血管炎症候群（高安動脈炎、巨細胞性動脈炎、結節性多発動脈炎、顕微鏡的多発血管炎、多発血管炎性肉芽腫症、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症、リウマトイド血管炎、クリオグロブリン血管炎など）、リウマチ性多発筋痛症、ベーチェット病、成人スティル病、脊椎関節炎（強直性脊椎炎、乾癬性関節炎など）、IgG4 関連疾患、サルコイドーシス、など

これら以外の疾患でも対応しているものが多くあります。

【ご紹介のポイント】

- 関節や筋の疼痛や動きにくさ
- 原因不明の発熱、倦怠感
- 疾患の特定できない皮膚、粘膜異常
- 上記症状に加えてタンパク尿などの尿異常
- 間質性肺炎などの呼吸器病変
- 抗核抗体、抗 DNA 抗体、リウマトイド因子、抗 CCP 抗体などの自己抗体陽性
- 原因不明の血球減少
- 血栓症を繰り返す（特に若年から）
- 膠原病や血管炎に伴う腎障害、肺疾患、神経障害など

当科の最新情報はホームページでご確認ください。



腎臓内科・透析科

スタッフ紹介



氏名 武井 卓
(たけい たかし)

役職 部長

出身 新潟大学 (平成7年卒)

資格 ・日本内科学会認定医・総合内科専門医
・日本腎臓病学会専門医・指導医・評議員
・日本透析医学会専門医・指導医 他



氏名 板橋 美津世
(いたばし みつよ)

役職 部長

出身 東京女子医科大学 (平成8年卒)

資格 ・日本内科学会認定医・総合内科専門医
・日本腎臓病学会専門医・指導医・評議員
・日本透析医学会専門医・指導医 他



氏名 鈴木 訓之
(すずき のりゆき)

役職 医長

出身 杏林大学 (平成15年卒)

資格 ・日本内科学会認定医・総合内科専門医
・日本腎臓学会専門医・指導医
・日本透析医学会専門医・指導医 他



氏名 岡 雅俊
(おか まさとし)

役職 専門医長

出身 山梨大学 (平成20年卒)

資格 ・日本内科学会認定医
・日本透析医学会専門医

常勤医

山中 法子 (やまなか のりこ)

松野 志歩 (まつの しほ)

非常勤医

鶴田 悠木 (つるた ゆうき)

橋本 征治 (はしもと せいじ)

【診療科紹介】

当科の特徴は、腎疾患の中でも高齢者に多い慢性腎臓病、急性腎障害、難治性ネフローゼ症候群、難治性血管炎・膠原病に伴う腎障害に力を入れています。高齢者では腎臓の働きが正常の方でも若年成人に比べて約70%まで低下していくと言われていています。そのため、ひとたび腎臓病を生じると末期腎不全へと進行し、腎代替療法(血液透析・腹膜透析・腎移植)を受ける危険性が出てきてしまいます。年々増え続ける腎臓病を早期発見し、個々の患者さんに合わせた適切な治療を行い、末期腎不全への進展抑制に努めます。また腎代替療法が必要となってしまった場合も生活の質を低下させないよう考慮し適切な治療が受けられるよう療法選択を行っています。透析導入後もフレイル・認知症が発症・進行しないように対策しています。また腎代替療法を希望されない患者さんへの対応も行っています。一方で多くの若年の患者さんも受診頂いており、腎炎・ネフローゼ症候群など積極的に診療しております。当科の診療ポリシーは「患者さんを中心に考える」ということです。患者さんの家族を含め、皆が納得できる診療をめざしたいと思えます。

【対象疾患】

- 尿所見異常(蛋白尿・血尿) / 腎機能低下・慢性腎炎・急性腎炎・急速進行性腎炎
- 慢性腎臓病(CKD)：腎臓の働き(GFR)が健康な人の60%未満に低下する(GFRが60ml/分

/1.73㎡未満)か、あるいは蛋白尿が出るといった腎臓の異常が続く状態です。CKDが進行しステージ5(慢性腎不全)になると腎代替療法(血液透析・腹膜透析・腎移植)が必要となります。

- 急性腎障害(AKI)：急激に腎臓の働きが低下する状態です。感染、薬剤、脱水などで生じることがあります。
- ネフローゼ症候群：大量の蛋白尿により低蛋白血症となりむくみが出てきます。
- 血管炎・膠原病や血液疾患に伴う腎障害：皮疹、関節痛や貧血などを伴うことがあり、しばしば急速に腎機能が低下していきます。

【ご紹介のポイント】

月一金曜外来診療しております。尿の泡立ち、血尿、浮腫、倦怠感などが主な症状です。腎臓病は症状が出にくい特徴がありますので区の健診などで尿所見異常、eGFRの低下などありましたらご紹介ください。尿所見異常に関しては腎生検による病理組織診断をし、治療決定しております。ネフローゼ・血管炎の治療はリツキシマブ使用など経験豊富です。末期腎不全については、血液透析、腹膜透析導入を行っています。透析患者に対する様々な合併症にも対応しています。また非透析導入希望患者への対応も行っています。高齢者に限らず幅広い年齢層の患者さんをお受けいたしておりますのでご紹介ください。

当科の最新情報はホームページでご確認ください。



糖尿病・代謝・内分泌内科

スタッフ紹介

	氏名 田村 嘉章 (たむら よしあき)
役職	部長、フレイル予防センター副センター長 (フレイル医療・研修部門)
出身	東京大学 (平成8年卒)
資格	・日本内科学会認定総合内科専門医・指導医 ・日本糖尿病認定糖尿病専門医・指導医・評議員 ・日本内分泌学会認定内分泌代謝科 (内科) 専門医・指導医 他

	氏名 荒木 厚 (あらき あつし)
役職	フレイル予防センター長 健康長寿医療研修センター長
出身	京都大学 (昭和58年卒)
資格	・日本老年医学会専門医・指導医、名誉会員 ・日本老年学会理事 ・日本糖尿病学会専門医・指導医、功労評議員 他

	氏名 千葉 優子 (ちば ゆうこ)
役職	臨床検査科部長
出身	群馬大学 (平成7年卒)
資格	・日本内科学会認定総合内科専門医・指導医 ・日本糖尿病学会専門医・指導医・評議員 ・日本内分泌学会専門医・指導医 他

	氏名 豊島 堅志 (とよしま けんじ)
役職	医長
出身	東京医科歯科大学 (平成16年卒)
資格	・日本内科学会認定総合内科専門医 ・日本老年医学会認定老年病専門医・指導医、代議員 ・日本糖尿病学会認定糖尿専門医・指導医

	氏名 大庭 和人 (おおば かずひと)
役職	専門医長
出身	北里大学 (平成18年卒)
資格	・日本内科学会認定総合内科専門医 ・日本糖尿病学会認定糖尿病専門医 ・日本内分泌学会認定内分泌代謝科専門医 他

常勤医	
小寺 玲美 (こでら れみ)	
館鼻 彩 (たちばな あや)	
非常勤医	
木下 大輔 (きのした だいすけ)	
森 聖二郎 (もり せいじろう)	

【診療科紹介】

当科は、高齢者の糖尿病治療では、伝統のある全国でも有数の施設の一つで、糖尿病、内分泌学会の専門医・指導医が複数在籍しています。以下のような診療の特徴があります。

- 個別性を重視した治療：認知機能、身体機能、社会環境など、患者さんの様々な条件を評価して、治療の方法を考え、QOL 重視の医療を行っています。
- 柔軟性のある治療：2型の糖尿病患者さんでインスリン治療が困難な場合、インスリンの離脱や注射回数の減少などを試みます。
- 最新の治療：持続グルコースモニタリング (CGM) が可能で、間歇スキャン式 CGM とリアルタイム CGM が行えます。1型糖尿病患者へのインスリンポンプの導入も可能で、CGM とポンプが連動してインスリンを自動調整するハイブリッドクローズドループ療法も行えます。
- チーム医療：糖尿病認定看護師 (糖尿病看護外来) や糖尿病療養指導士の資格を持つ看護師、栄養士、薬剤師、理学療法士がおり、医師とチームで食事、運動、服薬、インスリン注射、血糖測定、フットケアなどの指導をします。
- 糖尿病教室：入院糖尿病教室を多職種で、また患者会 (育寿会) と連携しながら外来糖尿病教室等を行っています。
- 内分泌疾患も甲状腺や下垂体、副腎疾患など豊富に扱っております。
- 糖尿病患者さんのフレイル評価も行えます。

【対象疾患】

- 糖尿病：2型糖尿病、1型糖尿病、その他の糖尿病
- 境界型耐糖能異常
- メタボリックシンドローム、肥満症
- 低血糖：インスリンノーマ、腫瘍性低血糖、薬剤性低血糖、内分泌疾患による低血糖、ダンピング症候群など
- 脂質異常症：高コレステロール血症、高中性脂肪血症
- 甲状腺疾患：甲状腺機能低下症、橋本病、甲状腺機能亢進症、バセドウ病、甲状腺腫瘍
- 副腎疾患：アジソン病、原発性アルドステロン症、クッシング症候群、副腎腫瘍
- 下垂体疾患：汎下垂体機能低下症、尿崩症、下垂体腫瘍
- 骨粗鬆症

【ご紹介のポイント】

- ① 血糖コントロール不良の方、とくに認知機能やADLが低下しており社会サポートが不足している方
- ② 注射製剤の中止や単純化、減薬が考慮される方
- ③ CGM やインスリンポンプを導入したいが難しい方など、ご紹介いただけますと幸いです。当科では随時入院加療を行っているほか、糖尿病看護外来を常時開設し、上記のような療養上の問題のある方の療養支援を行っています。フットケアも行いますので、糖尿病足病変のあるまたはリスクが高い方もご紹介いただけます。糖尿病患者さんのフレイル評価 (認知機能、身体機能など) も可能です。

当科の最新情報はホームページでご確認ください。



循環器内科

スタッフ紹介



氏名 原田 和昌
(はらだ かずまさ)

役職 副院長

出身 東京大学 (昭和 60 年卒)

資格 ・日本循環器学会循環器専門医
・日本循環器学会地方評議員
・日本高血圧学会高血圧専門医
・日本老年医学会老年科専門医 他



氏名 石川 譲治
(いしかわ じょうじ)

役職 部長

出身 自治医科大学 (平成 6 年卒)

資格 ・日本循環器学会循環器専門医
・日本超音波医学会超音波指導医
・日本高血圧学会高血圧指導医
・日本老年医学会老年病指導医 他



氏名 坪光 雄介
(つばこう ゆうすけ)

役職 専門部長

出身 獨協医科大学 (平成 5 年卒)

資格 ・日本循環器学会循環器専門医
・日本心血管インターベンション治療学会
専門医
・日本内科学会認定内科医



氏名 碓井 伸一
(うすい しんいち)

役職 専門部長 / 心臓カテーテル室長

出身 信州大学 (平成 7 年卒)

資格 ・日本循環器学会循環器専門医
・日本心血管インターベンション治療学会
専門医
・日本内科学会認定内科医



氏名 石山 泰三
(いしやま たいざう)

役職 専門部長 / 不整脈治療担当医師

出身 東京医科大学 (平成 8 年卒)

資格 ・日本内科学会認定内科医専門医
・日本循環器学会循環器専門医
・日本不整脈学会・日本心電学会認定不整
脈専門医 他



氏名 藤本 肇
(ふじもと はじめ)

役職 担当部長

出身 東京大学 (平成 8 年卒)

資格 ・日本心血管インターベンション治療学会
専門医
・日本内科学会総合内科専門医
・ICD、CRT 植え込み登録医



氏名 鳥羽 梓弓
(とば あゆみ)

役職 医長

出身 千葉大学 (平成 18 年卒)

資格 ・日本内科学会総合内科専門医
・日本循環器学会循環器専門医
・日本高血圧専門医、指導医 他



氏名 小松 俊介
(こまつ しゅんすけ)

役職 医長

出身 東京医科大学 (平成 20 年卒)

資格 ・日本内科学会総合内科専門医
・日本循環器学会循環器専門医
・産業医 他



氏名 二見 崇太郎
(ふたみ しゅうたろう)

役職 専門医長

出身 九州大学 (平成 23 年卒)

資格 ・日本内科学会総合内科専門医
・日本循環器学会循環器専門医
・日本超音波医学会超音波専門医 他

常勤医

十菱 千尋 (じゅうびし ちひろ)

清水 瑠理 (しみず るり)

齊藤 義弘 (さいとう よしひろ)

両角 愛 (もろがみ あい)

吉村 沙織 (よしむら さおり)

非常勤医

鈴木 歩 (すずき あゆみ)

谷口 泰 (たにぐち とおる)

中里 良 (なかざと りょう)

山本 文 (やまもと あや)

米村 慈人 (よねむら しげと)

循環器内科

【診療科紹介】

循環器内科では、心不全、虚血性心疾患、心臓弁膜症、不整脈、閉塞性動脈硬化症、深部静脈血症や肺塞栓、高血圧、起立性および食後性低血圧など、高齢者における心血管疾患に幅広く対応しております。

外来は月～金曜日まで開設しております。東京都CCU ネットワークおよび大動脈スーパーネットワークを通じて、夜間休日も24時間体制で心臓病の救急搬送を受け入れ、緊急カテーテル治療にも対応しております。平日外来は予約制ですが、予約外での受診をご希望される際は、まずお電話でご相談ください。近隣の病院・開業医の先生に通院されている患者においても、連携を取りながら治療を行います。

対象疾患は循環器疾患のそれぞれの分野において専門的知識・技術を有するスタッフを擁しております。特に弁膜症、不整脈に関しては専門外来も設けて診療を行っています。心臓外科、血管外科とも連携しながら、ハートチームとして診断治療を行っています。高齢者に多い重症大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル的大動脈弁置換や心房細動に対するカテーテルアブレーションも行っています。

高齢の心不全で入院される患者さんが多いのが特徴です。入院前の状態に戻すことが目標ですが、高齢者は多臓器に合併症を有することが多く、認知機能障害、筋肉量低下、運動機能の低下が認められ、生活の質が低下してしまうことがあります。高齢患者さんに対しては、疾患発症や再発予防だけでなく、フレイル、サルコペニア、認知機能などを評価して、個々の状態に応じた栄養療法や運動リハビリテーションを行うことで生活の質を維持するように心がけています。

高血圧に関しても24時間自由行動下血圧や家庭血圧を評価しながら適切な治療を行っています。高齢者は血圧変動が大きく、血圧管理に困難を来す患者が多く認められますが、起立性低血圧、食後低血圧などを認める患者においても適切な血圧管理を行うようにしています。

【対象疾患】

心不全（急性、慢性）：心臓の機能が低下して、血液を送り出すポンプの働きが十分できなくなり、息切れやむくみがでる状態です。至適な薬物治療、場合によってはデバイス治療（大動脈バルーンパンピング、インペラ、補助循環、両心室ペーシング）、手術なども検討します。心不全治療に対して、医師、看

護師、薬剤師、理学療法士、栄養士、臨床工学技士、ソーシャルワーカーなどがハートチームとして連携しながら、総合的に対応いたします。

虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）：心臓の筋肉に血液を送る冠動脈が動脈硬化や攣縮によって狭窄・閉塞する病気で、薬物治療・カテーテル治療・外科的手術を行います。外科的な冠動脈バイパス術が必要と判断された場合には、心臓外科と協力しながら治療を行います。

不整脈（心房細動・心房粗動・上室性頻拍・心室頻拍などの頻脈性不整脈、完全房室ブロック・洞不全症候群などの徐脈性不整脈）：心臓内に電気の伝導路ができて頻脈になったり、電気の伝わりが悪くなって徐脈になったりして、動悸・息切れ・失神などの症状が現れます。原因となる電気伝導路を焼灼アブレーションや、ペースメーカー植込み術などを行います。

心臓弁膜症（僧帽弁閉鎖不全・狭窄症、大動脈弁閉鎖不全・狭窄症など）：弁が緩んだり硬化することによって、血液が逆流したり通過障害をきたしたりする状態です。当センターは経カテーテル的大動脈弁置換術の施設認定を受けています。外科的弁膜症手術が必要であると判断された患者様は、心臓外科との協力で治療を行います。

心筋症（拡張型心筋症・肥大型心筋症・アミロイドーシス、心サルコイドーシスなど）の診断治療も可能です。

深部静脈血栓・肺塞栓：下肢静脈に血栓が生じると、肺に塞栓を起こすことがあります。当院では肺塞栓の診断治療において一時的な大静脈フィルター挿入や体外循環を用いた治療も行うことが可能です。

高血圧：24時間自由行動下血圧測定を行い、積極的に仮面高血圧や白衣高血圧の診断を行っています。また、高齢者に多いとされる起立性低血圧や食後低血圧、フレイル（虚弱）、筋肉減少症（サルコペニア）、認知機能なども評価し、総合的に血圧管理しています。

【ご紹介のポイント】

上記疾患が疑われる患者、治療に難渋している患者がありましたら、医療連携係にご連絡ください。緊急受診に関しては、循環器救急担当医または当直医（17時00分～翌8時30分）で対応いたしますので、病院代表番号（03-3964-1141）までご相談ください。



呼吸器内科

スタッフ紹介



氏名 山本 寛
(やまもと ひろし)

役職 内科総括部長
部長兼務

出身 東京大学 (平成9年卒)

資格 ・日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医
・日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・指導医
・日本老年医学会老年科専門医・指導医・代議員 他



氏名 山田 浩和
(やまだ ひろかず)

役職 専門部長

出身 山梨医科大学 (平成4年卒)

資格 ・日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医
・日本アレルギー学会アレルギー専門医・指導医
・日本リウマチ学会リウマチ専門医 他

常勤医

佐塚 まなみ (さづか まなみ)

野木森 智江美 (のぎもり ちえみ)

籠尾 南海夫 (かごお なみお)

非常勤医

齋藤 朗 (さいとう あきら)

【診療科紹介】

呼吸器内科では、老年医学の知見に基づいて、各種呼吸器疾患の包括的な診断と治療、およびケアを行っています。最新の診療ガイドラインに則った治療選択肢を提示することは当然ですが、実際に高齢患者さんに適用するうえでは、倫理面も含めた十分な配慮が必要です。昨今、肺がん診療においては、高齢者に対する過大治療・過小治療が問題になっています。当院では高齢者機能評価によって、患者さんの多様な脆弱性を把握し、これを患者さんや介護者の方と共有した上で、治療の意思決定支援を行っています。そして、生活の質を最大限維持しながら、がんと共生できるように支援しています。気管支喘息や慢性閉塞性肺疾患 (COPD) など、他の呼吸器疾患についても、患者さんそれぞれの生活機能を維持し、健康寿命を延伸する観点から治療方針を提案しています。例えば、COPDや喘息の患者さんにおける吸入療法の選択、喘息患者さんの生物学的製剤の導入などにあたって、患者さんそれぞれの身体的・精神心理的・社会的な脆弱性にまで配慮し、ご本人の意思を大切にしながら進めています。

【対象疾患】

原発性肺がん、悪性胸膜中皮腫、慢性閉塞性肺疾患 (COPD)、間質性肺疾患、気管支喘息、気管支拡張症、睡眠時無呼吸症候群など、ほとんどすべての高齢者呼吸器疾患に対応しています。肺結核、非結核性抗酸菌症についても、その診断・治療を行っていますが、排菌のある開放性結核症例には対応できません。喀血症例についても、当院での対応は困難ですので、周辺医療機関の喀血センターなどへのご紹介を頂きますと幸いです。ほとんどの気管支内視鏡手技に対応可能ですが、気管支狭窄例に対するステント治療などの気管支インターベンションには対応できません。呼気NO検査 (一酸化窒素検査) の測定は可能ですが、アストグラフ、インパルスオシロメトリー、モストグラフは対応できません。

【ご紹介のポイント】

幅広い呼吸器疾患の症状、診断・治療に対応していますが、「診療科の特徴」に記載いたしましたとおり、特に高齢者の肺がん診療においては国内でも有数の実績がありますので、ぜひご紹介ください。高齢肺がん患者さんについては、C@RNACConnectから早期のご予約が可能ですのでご活用ください。肺がん以外の患者さんに関しましては、通常どおり、予約センターからのご予約をお願いしておりますが、予約をお急ぎのケースに関しましては、医療連携係まで直接ご連絡ください。

当科の最新情報はホームページでご確認ください。



消化器・内視鏡内科

スタッフ紹介



氏名 小野 敏嗣
(おの さとし)

役職 部長

出身 東京大学 (平成 15 年卒)

資格 ・博士 (医学) 東京大学
・日本内科学会認定医・総合内科専門医・指導医
・日本消化器病学会専門医・指導医
・日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
・関東支部評議員・本部学術評議員・FJGES
・日本肝臓学会 専門医・暫定指導医
・難病指定医



氏名 保坂 祥介
(ほさか しょうすけ)

役職 専門医長

出身 愛知医科大学 (平成 20 年卒)

資格 ・日本内科学会認定医・総合内科専門医・指導医
・日本消化器病学会専門医・指導医
・日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
・日本胆道学会認定指導医
・日本肝臓学会専門医
・日本救急医学会 JMECC インストラクター
・難病指定医



氏名 深川 一史
(ふかがわ かずし)

役職 専門医長

出身 佐賀大学 (平成 22 年卒)

資格 ・博士 (医学) 東京大学
・日本内科学会認定医・総合内科専門医・指導医
・日本消化器病学会専門医・指導医
・日本肝臓学会専門医
・日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
・関東支部評議員・本部学術評議員
・難病指定医



氏名 葦沢 龍人
(あしざわ たつと)

役職 顧問
保険指導専門部長

出身 東京医科大学 (昭和 54 年卒)

資格 ・日本外科学会専門医・指導医
・日本消化器外科学会専門医・指導医
・日本肝臓学会専門医・指導医
・日本病院総合診療医学会認定医
・日本抗加齢医学会専門医
・消化器がん外科治療認定医

常勤医

羽鳥 清華 (はとり せいか)

大隅 瞬 (おおすみ しゅん)

非常勤医

磯貝 純 (いそがい じゅん)

三神 信太郎 (みかみ しんたろう)

【診療科紹介】

消化器・内視鏡内科では、2022年に新体制に移行してから東京大学医学部附属病院消化器内科と連携の上で内視鏡治療、各種抗癌剤治療、薬物治療等、あらゆる消化器疾患に対応できるような体制を強化しています。

高齢者の多い当院の特徴に即して、高齢者の病態を考慮し、安全かつ負担のない治療が行えるよう工夫しています。

鎮静剤を使用し、苦痛のない上下部内視鏡検査を行っております。また、自宅での下剤内服等に不安のある方でも安心して検査を行って頂けるような、短期入院制度を取り入れています。

食道癌、胃癌、十二指腸癌、大腸癌に対して、手術と比較して低侵襲である内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) を積極的に行っています。

高齢者に多い、総胆管結石胆管炎や、胆膵悪性腫瘍に対して、内視鏡的逆行性胆膵胆管造影術 (ERCP) による診断や治療を行っています。

膵癌を始め、悪性リンパ腫、胃粘膜下腫瘍、肝腫瘍、胆管癌や胆嚢癌、腫大リンパ節等を穿刺して病理学的診断をつける超音波内視鏡下穿刺吸引術 (EUS-FNA) も行っています。

肝炎ウイルス治療、肝硬変に伴う食道胃静脈瘤の内視鏡治療 (EVL・EIS)、肝細胞癌に対するラジオ波焼灼術 (RFA)、動脈塞栓術 (TAE) も可能です。

【対象疾患】

腫瘍性疾患：食道癌、胃癌、十二指腸癌、大腸癌、膵癌、膵嚢胞性腫瘍、胆管癌 (胆嚢癌、胆管癌、

十二指腸乳頭部癌)、肝細胞癌、神経内分泌癌など
消化管疾患：逆流性食道炎、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、直腸潰瘍、憩室炎、虚血性腸炎、憩室出血、消化管異物誤飲、腸閉塞、炎症性腸疾患 (潰瘍性大腸炎、クローン病)、好酸球性胃腸症など
胆膵疾患：総胆管結石、胆管炎、胆嚢炎、急性膵炎、慢性膵炎、自己免疫性膵炎、硬化性胆管炎など
肝疾患：肝腫瘍、ウイルス性肝炎、薬剤性肝炎、自己免疫性肝炎など

【ご紹介のポイント】

ESD は、食道・胃・十二指腸・大腸と幅広く行っており、新体制となった 2022 年以降件数は徐々に増えて、2023 年度は 135 件施行しています。

EUS は膵臓のみならず、リンパ節、胃粘膜下腫瘍などの穿刺も行い、高い診断率を得ています。さらに、膵炎後被包化壊死の穿刺ドレナージ術などの EUS に関連した様々なインターベンショナル EUS も積極的に取り組んでいます。

ERCP は、総胆管結石に伴う胆管炎の治療や胆道腫瘍の診断を目的に行なっており、こちらも 2022 年以降件数は徐々に増えて、2023 年度は 241 件施行しています。また、良性疾患のみならず、悪性胆道狭窄に対する金属ステントの留置も多数行っています。さらに、小腸内視鏡を活用した消化管術後胆道疾患にも積極的に ERCP を施行しています。

消化管悪性腫瘍に伴う消化管狭窄を来した方にも、経口摂取が可能となる金属ステント留置も積極的に取り組んでいます。

当科の最新情報はホームページでご確認ください。



脳神経内科・脳卒中科

スタッフ紹介



氏名 岩田 淳
(いわた あつし)

役職 副院長
部長兼務

出身 東京大学 (平成5年卒)

資格 ・総合内科専門医
・日本内科学会認定内科医
・日本神経学会認定神経内科専門医・指導医 他



氏名 仁科 裕史
(にしな やすし)

役職 専門部長
脳卒中A担当部長

出身 福島県立医科大学 (平成3年卒)

資格 ・日本神経学会認定神経内科専門医・指導医
・日本内科学会認定内科医
・認知症学会専門医・指導医 他

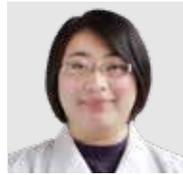


氏名 東原 真奈
(ひがしはら まな)

役職 医長

出身 信州大学 (平成13年卒)

資格 ・日本内科学会認定内科医
・日本神経学会認定神経内科専門医・指導医
・日本臨床神経生理学会専門医・指導医



氏名 井原 涼子
(いはら りょうこ)

役職 医長

出身 東京大学 (平成14年卒)

資格 ・総合内科専門医
・日本内科学会認定医
・日本神経学会認定神経内科専門医・指導医 他

常勤医	研究所所属医師	非常勤医
波多野 敬子 (はたの けいこ)	齊藤 祐子 (さいとう ゆうこ)	江口 桂 (えぐち けい)
平 賢一郎 (たいら けんいちろう)	石井 賢二 (いしい けんじ)	大南 伸也 (おおみなみ のぶや)
栗原 正典 (くりはら まさのり)	石橋 賢士 (いしばし けんじ)	金丸 和富 (かねまる かずとみ)
北村 明日香 (きたむら あすか)	村山 繁雄 (むらやま しげお)	木村 友彦 (きむら ともひこ)
	荒川 晶 (あらかわ あきら)	近藤 壮一郎 (こんどう そういちろう)
	原 愛徒 (はら まなと)	仙石 錬平 (せんごく れんべい)
		広吉 祐子 (ひろよし ゆうこ)
		森本 悟 (もりもと さとし)

【診療科紹介】

神経内科の様々な領域を専門とする常勤の神経内科専門医が8名おりますので、救急から慢性疾患まで、脳血管障害、てんかん、脳炎・脊髄炎、神経変性疾患、末梢神経障害、筋疾患などの幅広い疾患を診療しています。超急性期脳梗塞やてんかん重積発作など神経救急に対応できる診療体制をとりつつ、すぐれた診療・検査・研究環境を生かして診断困難な神経疾患の診療にもあたっています。パーキンソン病の患者さんが多いことから、重症度が軽く、治療方針が固まり安定している患者さんは診療連携の上で連携医でのフォローアップをお願いしています。比較的高齢の患者さんが多いため、もの忘れや認知症のため受診される方は多く、当科では専門外来でのレカネマブによる診療の他、治験や臨床研究など専門性の高い取り組みをしています。神経難病である筋萎縮性側索硬化症(ALS)についても、専門外来にて多職種による全人的な医療・ケア体制の提供を行っています。

レカネマブによる診療をご希望の際には、まずはもの忘れ外来または脳神経内科外来を受診ください。筋萎縮性側索硬化症の専門外来についても、まずは脳神経内科外来を受診ください。

また、臨床検査科と協力して、末梢神経障害の診断に必要な筋電図検査の地域医療機関への提供もすすめています。

【対象疾患】

頭痛、めまい、ふらつきなど歩行の問題、しびれの訴えで受診される方が多いですが、以下の専門疾患の診断・治療やケアなどの診療も行っています：

脳梗塞：超急性期治療～再発予防

てんかん発作：重積発作の救急治療、慢性期の薬剤調整

パーキンソン病・レビー小体型認知症：診断および治療・慢性期の薬剤調整

アルツハイマー病：診断および治療(レカネマブ含む) 様々な認知症性疾患、多系統萎縮症、パーキンソン症候群

ALS：診断・ケアのサポート

炎症・自己免疫性疾患：脳炎・髄膜炎、多発性硬化症・視神経脊髄炎、サルコイドーシス

遺伝性疾患：脊髄小脳変性症、神経核内封入体病

末梢神経障害：ギラン・バレー症候群、慢性炎症性脱髄性多発神経炎、多巣性運動ニューロパチー

神経筋接合部・筋疾患：筋炎、筋強直性ジストロフィー、重症筋無力症

【ご紹介のポイント】

- 突然発症の頭痛、意識障害、言語障害、運動麻痺、歩行障害などを認める場合は脳卒中の可能性が高く、緊急治療が必要です。予約外来ではなく、救急外来へご紹介ください。当院では24時間MRIが撮像可能で、超急性期の治療が可能です。
- 日～週単位で出現・悪化する意識障害や痙攣、頭痛、言語障害、運動麻痺、歩行障害といった症状の患者さんも予約外で診療します。脳神経内科外来に電話でご相談ください。夜間・休日は救急外来にご連絡ください。
- 徐々に進行するもの忘れ、手足の震え、歩行障害、筋力低下、慢性の頭痛などの患者さん脳神経内科外来の予約をおとりください。
- 神経症状を呈する患者さんの診断・診療でお困りの時にはご紹介ください。

当科の最新情報はホームページでご確認ください。



血液内科

スタッフ紹介



氏名 宮腰 重三郎
(みやこし しげさぶろう)
役職 部長
出身 聖マリアンナ医科大学 (昭和 59 年卒)
資格 ・日本内科学会認定医内科学
・日本血液学会血液専門医・指導医
・日本老年医学会代議員 認定老年病専門医・指導医 他



氏名 小倉 和外
(おぐら かずと)
役職 医長
出身 防衛医科大学 (平成 10 年卒)
資格 ・日本内科学会認定内科学
・日本内科学会総合内科専門医
・日本血液学会血液専門医・指導医 他



氏名 赤川 順子
(あかがわ じゅんこ)
役職 造血細胞移植コーディネーター
(血液疾患看護、造血細胞移植看護)
出身 青森県立保健大学大学院 (平成 20 年卒)
資格 ・日本造血・免疫細胞療法学会認定造血細胞移植コーディネーター
・日本造血・免疫細胞療法学会評議員
・日本がん口腔支持療法学会理事



氏名 小林 寿美子
(こばやし すみこ)
役職 血液内科部長
輸血・細胞療法科部長
出身 日本大学 (昭和 61 年卒)
資格 ・日本内科学会認定内科学・総合内科専門医・指導医
・日本血液学会血液専門医・指導医
・日本輸血細胞治療学会認定医・細胞療法管理認定師・評議員
・日本造血免疫細胞療法学会認定医・評議員
・日本骨髄移植推進財団調整医師・連絡責任医師・採取責任医師



氏名 齋藤 輔
(さいとう たすく)
役職 医長
出身 聖マリアンナ医科大学 (平成 15 年卒)
資格 ・日本内科学会認定内科学
・日本血液学会血液専門医 他

常勤医

橘 盛昭 (たちばな もりあき)

【診療科紹介】

当科では、主に血液悪性疾患を中心に診療を行っています。血液悪性疾患は若年者に比べ、発症率が高く、また、標準的治療が確立していない分野です。

65 歳以上 80 歳未満の骨髄異形成症候群や急性骨髄性白血病に対して、治癒を目指した同種造血幹細胞移植を積極的に行っています。悪性リンパ腫や多発性骨髄腫も高齢者に多い疾患ですが、治療の進歩により副作用が少ない新規薬剤も多く開発されています。これら高齢者に合わせて治療を行っています。

採血にて白血球数増加 / 減少、貧血、血小板減少、免疫グロブリンの異常やリンパ節腫大などがありましたら、ぜひご紹介ください。緊急時は直接ご連絡いただければ幸いです。

【対象疾患】

- 骨髄異形成症候群 / 急性骨髄性白血病 / 急性リンパ性白血病 (血算の異常)
- 慢性骨髄性白血病 / 慢性リンパ性白血病 (白血球増加)
- 多発性骨髄腫 (総蛋白の増加、貧血を伴う腰痛)
- 悪性リンパ腫 (リンパ節の腫大や不明熱)
- 再生不良性貧血 (汎血球減少)
- 特発性血小板減少性紫斑病 (血小板減少 出血傾向)
- ビタミン欠乏性貧血
- 鉄欠乏性貧血
- 溶血性貧血

【ご紹介のポイント】

- 健診では若年者を含んだ正常値が記載されていますが、高齢者では男女ともヘモグロビン値 11g / d L 未満を貧血として定義しています。ヘモグロビン値 11g / d L 未満の場合ご紹介ください。
- 出血傾向は血小板減少を疑わせる重要な症状です。しかし、前腕を中心の皮下出血斑は老人性紫斑といわれ、血管の脆弱によるものです。血小板数は正常となります。
- 貧血を認めた場合、小球形貧血は鉄欠乏性貧血が疑われます。採血にて Fe / TIBC (UIBC) / Ferritin を測定してください。高齢者の場合は消化管出血の場合が多いので消化管の検査を先に行っていただければ幸いです。
- 血算の異常があった場合は、血液疾患もさることながら薬剤性血液障害の場合もありますので、処方内容と開始日を明記していただければ幸いです。また、異常のあった検査結果だけでなく、過去のデータも添付していただければ幸いです。
- 近年、診断技術が進歩し、特殊な検査をする必要がありますので、リンパ節腫大の場合は生検せずにご紹介ください。生検済みの場合は再生検が必要になり、負担が増してしまいます。

当科の最新情報はホームページでご確認ください。



感染症内科

スタッフ紹介



氏名	小金丸 博 (こがねまる ひろし)
役職	専門部長
出身	筑波大学 (平成 13 年卒)
資格	・日本内科学会総合内科専門医 ・日本感染症学会感染症専門医 ・ICD (インフェクション・コントロール・ドクター) 他

非常勤医

吉田 敦 (よしだ あつし)

【診療科紹介】

多くの診療科が特定の臓器を専門としている中で、感染症内科は特定の臓器を対象としない臓器横断的な診療科です。高齢者における感染症は基礎疾患や臓器障害を背景に発症している例が多く、幅広い内科的知識に基づいた総合的な対応を必要とします。

細菌、真菌、ウイルス、寄生虫といった様々な病原微生物による感染症の知識を有し、自科で治療を担当したり、他診療科からの相談に対応しています。

様々な合併症を持った高齢者の感染症・発熱疾患に対応し、社会的背景も含めたバランスのとれた医療を心がけています。

院内感染症対策の担い手として、安全・安心な病院を目指しています。

主に板橋区内の病院、診療所と連携し、地域の感染症対策の担い手を目指しています。

感染症予防に関しては、高齢者に対するワクチン接種に積極的に取り組んでいます。ワクチン外来では、肺炎球菌ワクチン（ニューモバックス）、インフルエンザワクチン、帯状疱疹ワクチン（シングリックス）、RSウイルスワクチン（アレックスビー）、破傷風トキソイド、B型肝炎ワクチンの接種を行っています。

【対象疾患】

外来では、肺炎、結核（リンパ節結核などの肺外結核を含む）、非結核性抗酸菌症などの呼吸器疾患、梅毒などの性行為感染症、発熱疾患全般の診療を行っています。インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、尿路感染症、皮膚軟部組織感染症などの急性感染症に関しては、救急外来や総合内科外来と連携をとりながら診療を行っています。

原因のはっきりしない発熱（不明熱）の原因は感染症以外の疾患であることも多いですが、感染症内科が窓口となることも多い領域です。不明熱で受診される患者では、感染症（結核、ウイルス感染症、感染性心内膜炎、骨髄炎など）のみならず、悪性腫瘍、膠原病、内分泌疾患、血液疾患など様々な疾患が診断されます。

【ご紹介のポイント】

原因のはっきりしない発熱や炎症反応が上昇している症例、抗生物質の効果が乏しい感染症疑いの症例、梅毒などの性行為感染症の症例の診療に対応いたします。また、接触者検診などで発見された潜在性結核感染症の診療も行っています。

予約を原則といたしますが、予約外でも緊急時には外来にて対応しております。

そのほか、高齢者のワクチン接種や、病院や診療所における感染対策に関する相談などがありましたら、感染症内科までお問い合わせください。

当科の最新情報はホームページでご確認ください。



スタッフ紹介



氏名 古田 光
(ふるた こう)

役職 部長

出身 東京医科歯科大学（平成8年卒）

資格 ・精神保健指定医
・日本精神神経学会認定専門医・指導医
・日本認知症学会認定専門医・指導医
・日本老年精神医学会専門医・指導医

常勤医

松井 仁美 (まつい ひとみ)

大森 佑貴 (おおもり ゆうき)

清水 真央 (しみず まお)

森 智裕 (もり ともひろ)

【診療科紹介】

高齢者を対象とした老年精神科として、うつ病、精神病性障害、神経変性疾患の精神症状、認知症のBPSD等、高齢者の精神障害の診断と治療を行っています。また、身体科病棟入院患者に対しては、年齢に関わらず総合病院の精神科としてコンサルテーションリエゾン精神医学を実践しています。若年性認知症のBPSD対応や多職種支援も行っています。

30床の閉鎖病棟があり、入院加療を行っています。入院医療は急性期に特化しており、入院期間は1か月間が目安です。急性期の治療終了後の療養については精神保健福祉士をはじめ、多職種でサポートします。入院診療では、難治性のうつ状態や精神病性障害に対して、全身麻酔下での電気けいれん療法（修正型ECT）を積極的に施行しています。

【対象疾患】

- 老年期の精神疾患
特にうつ病と幻覚や妄想を主症状とする精神病性障害
- 認知症の行動・心理状態（BPSD）の精査・治療
- 認知症・もの忘れの精査、診断、治療介入、介護者支援、当事者支援（もの忘れ外来）

【ご紹介のポイント】

- 高齢者で精神症状がある方はどなたでもご紹介ください。高齢者のうつ症状や幻覚妄想状態では、ベースに認知症性疾患が隠れていることも稀ではありません。とくに、うつ病や精神病性障害で、一般的な治療に反応しない方や、通常の薬物療法を副作用で実施できない方がいればご紹介ください。
- 高齢者に対する電気けいれん療法を積極的に施行しています。適応のある方を是非ご紹介下さい。
- 入院加療が必要と思われるケースは、認知症疾患医療センターにご相談くださいますとスムーズです。
- 極端な身体状態の不良のある方は、まずは当院内科系診療科にご相談ください。また、他の精神科や心療内科に通院中の方をご紹介いただく場合は、通院中の精神科・心療内科からの診療情報提供書も持参するようご説明くださいますと幸いです。



緩和ケア内科

スタッフ紹介



氏名	中島 豪 (なかじま ごう)
役職	部長
出身	日本大学 (平成 11 年卒)
資格	・日本緩和医療学会 緩和医療専門医・指導医 ・日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 ・日本スピリチュアルケア学会 スピリチュアルケア師 (認定)

常勤医

野木森 智江美 (のぎもり ちえみ)

【診療科紹介】

がんによる症状は多岐にわたります。緩和ケア内科では、痛みや呼吸苦、倦怠感などのがんによる症状に対応するだけでなく、抗がん治療によって生じた有害事象への対応も行っています。これらのがんやがん治療による症状の緩和は、生活の質を保つだけでなく、積極的抗がん治療にしっかりと向き合うためにも、より早期から行うことが基本とされるようになってきました。しかしながら、患者さんやご家族にとって「緩和ケア」はまだ「末期の医療」とのイメージが色濃く残っていることは多く、なかなか受診までハードルを高く感じていらっしゃる方も多いのが実情です。

地域の先生方におかれまして、このようながんや治療に伴う症状にお困りの患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひ「早期からの緩和ケア」をご提案いただき、当科へご紹介をいただけますと幸いです。医療用麻薬処方をはじめとした症状緩和のためのお手伝いだけでなく、より強い症状となり入院が必要となった場合に、緩和ケア病棟での症状緩和治療／ケアの提供をいたします。

これからも当センター近隣の地域医療を支えている先生方、看護師や薬剤師の皆様、ケアマネジャーの皆様と、密な連携や協働体制を築き、患者さんが最期の時までその人らしく過ごしていけるようお手伝いをしてまいりたいと考えております。

【対象疾患】

緩和ケア内科で診療を行うのは、がんと診断された患者様とご家族です。がんの終末期だけでなく、がんと診断されたときや、がんの治療中からでも受診できます。痛みや吐き気、呼吸苦など、がんの種別だけでなく部位や大きさでも症状はまったく異なりますので、早期からでも症状を落ち着かせて生活の質を向上させることを目標とし対応いたします。

症状でお困りの方はもちろん、がんになって生じた様々な苦痛や苦悩（身体的苦痛、精神的苦痛、社会的苦痛、実存的苦痛）へ丁寧に対応してまいります。緩和ケアは患者様のご家族のお困りへも対応しており、患者様の療養や介護の問題、経済的問題など、担当ソーシャルワーカーや看護師を交えてともに考えてまいります。

【ご紹介のポイント】

緩和ケア内科の外来には、外来通院で症状緩和治療などを行う「緩和ケア内科外来」と、将来病状が変化したときに緩和ケア病棟への入院を希望される方への相談および登録を行う「緩和ケア病棟入院相談外来」があります。

緩和ケア内科外来では、がん性疼痛をはじめとしたがんによる症状にお困りの患者様にお気軽に受診いただけます。他院での治療中でも構いません。

緩和ケア病棟入院相談外来は、将来少しでも緩和ケア病棟への入院の可能性がある方に受診・登録いただけます。積極的がん治療中からでも、他院での治療中でも申し込み可能です。

当科の最新情報はホームページでご確認ください。



スタッフ紹介

	<p>氏名 中里 徹矢 (なかざと てつや)</p> <p>役職 外科総括部長 部長兼務</p> <p>出身 杏林大学 (平成 12 年卒)</p> <p>資格 ・日本外科学会 専門医 / 指導医 ・日本消化器外科学会 専門医 / 指導医 ・日本肝胆膵外科学会 高度技能専門医 / 評議員 他</p>
---	--

	<p>氏名 金澤 伸郎 (かなざわ のぶお)</p> <p>役職 部長</p> <p>出身 筑波大学 (平成元年卒)</p> <p>資格 ・日本外科学会 専門医 / 指導医 ・日本消化器外科学会 専門医 / 指導医 ・日本消化器内視鏡学会 専門医 / 指導医 他</p>
---	---

	<p>氏名 三井 秀雄 (みつい ひでお)</p> <p>役職 医長 救急診療部医長</p> <p>出身 杏林大学 (平成 8 年卒)</p> <p>資格 ・日本外科学会 専門医 ・日本消化器外科学会 専門医 ・日本消化器内視鏡学会 専門医</p>
---	--

常勤医

新井 孝明 (あらい たかあき)

非常勤医

阿部 展次 (あべ のぶつぐ)	小野澤 志郎 (おのざわ しろう)
阪本 良弘 (さかもと よしひろ)	立石 秀勝 (たていし ひでかつ)
松木 亮太 (まつき りょうた)	森 俊幸 (もり としゆき)
柳田 修 (やなぎだ おさむ)	

【診療科紹介】

消化器領域の悪性疾患、良性疾患に対して、最新のエビデンスを重視しながらも患者さまのニーズに合わせた治療法をご提案し手術治療を行っています。疾患の診断や治療法の選択にあたっては、消化器内科や循環器内科、麻酔科を始めとした各専門診療科と協力しながら、併存疾患の多い高齢者の状態を総合的に評価した上で治療方針を検討しています。特に高齢者における外科治療では、癌の根治性だけではなく手術後も患者さまの生活の質 (QOL) を維持することが重要と考えています。疾患の進行度や患者さまの全身状態に合わせて、より低侵襲な腹腔鏡手術を積極的に行っています。肝胆膵領域の外科手術に対しては、肝胆膵外科学会高度技能専門医がすべての手術を担当しています。高齢の患者さまが多い医療機関ではありますが、診療に際しての年齢制限はありません。すべての年齢層の患者さまが受診していただけます。また、救急医療にも力を入れており、24 時間 / 365 日、2 名の外科医による on call 体制で救急対応を行い、緊急手術などの急性期治療に対応しています。

皮膚・排泄ケア認定看護師が常駐するストーマ外来も併設しており、他施設で造設されたストーマ管理のお手伝いや、身体障害者福祉法第 15 条の指定医 (直腸機能障害) による「身体障害者診断書・意見書」の作成も行っています。

【対象疾患】

悪性腫瘍 (胃癌、大腸癌、食道癌、肝臓癌、胆道癌、膵臓癌、乳癌など)、良性疾患 (胆石症、ヘルニア、内痔核、直腸脱などの肛門部疾患) に対する外科手

術治療を行っています。低侵襲な手術治療は胃癌や大腸癌に対する腹腔鏡下手術に加えて、腹腔鏡による脾切除術、肝切除術も積極的に行っています。また、悪性腫瘍に対する化学療法や放射線治療も行っています。

急性疾患として、腸閉塞 (癒着性、絞扼性)、急性胆嚢炎、急性虫垂炎、消化管出血、消化管穿孔などにも迅速に対応しています。

腹腔鏡手術外来、便潜血外来、肝胆膵専門外来、ストーマ外来の専門外来を行っています。

予約を原則としていますが、予約センターで予約できない場合や緊急対応をご希望の場合は当センターの医療連携係や外科外来まで直接ご連絡ください。早急に個別対応いたします。

【ご紹介のポイント】

“断らない医療”を心がけています。腹痛、下血、黄疸などの臨床症状のみで、まだ診断がついていない段階でご紹介いただいても構いません。また、検診などで消化器癌が疑われた場合は速やかに治療に繋げるように迅速に対応いたします。手術まで長期間お待たせすることはいたしません。

対象となる患者さまがおられましたら医療連携係か外科外来まで直接ご連絡ください。速やかに外科医が対応いたします。患者さまの状態に応じて、採血、画像診断、緊急内視鏡、緊急手術など、必要な対応を適宜行って参ります。仮に外科的な疾患ではなかったとしても、こちらで担当科と連携をとり対応致しますので、遠慮なさらずにご相談ください。

当科の最新情報はホームページでご確認ください。



心臓血管外科

スタッフ紹介



氏名 河田 光弘
(かわた みつひろ)

役職 心臓血管外科部長
血管外科部長

出身 浜松医科大学 (平成9年卒)

資格 ・外科指導医
・心臓血管外科修練指導者
・循環器専門医
・胸部ステントグラフト指導医
・TAVR 指導医 他



氏名 乾 明敏
(いぬい あきとし)

役職 医長

出身 東京大学 (平成19年卒)

資格 ・日本外科学会 外科専門医
・心臓血管外科専門医認定機構 心臓血管外科専門医



氏名 眞野 暁子
(まの あきこ)

役職 医長
特定集中治療室医長

出身 京都府立医科大学 (平成8年卒)

資格 ・循環器専門医
・認定内科専門医
・ECFMG certificate
・集中治療専門医
・看護師特定行為研修指導医



氏名 村田 知洋
(むらた ともひろ)

役職 医員

出身 和歌山県立医科大学 (平成22年卒)

資格 ・外科認定医 専門医
・心臓血管外科専門医
・胸部ステントグラフト実施医 (Gore TAG)
・TAVR 実施医 (SAPIEN シリーズ)

非常勤医

許 俊鋭 (きよ しゅんえい)	山本 真由 (やまもと まさよし)
小野 稔 (おの のり)	近藤 浩史 (こんどう ひろふみ)
木下 修 (きのした おさむ)	吉鷹 秀範 (よしたか ひでのり)
竹谷 剛 (たけたに つよし)	林田 健太郎 (はやしだ けんたろう)

【診療科紹介】

高齢者の心臓手術、大血管手術も積極的に行ってまいります。どのようにしたら、手術を安全に乗り越えられ、歩いてご自宅に退院できるかを常に考えて、術前から呼吸練習、身体的リハビリ、栄養指導、可能な限り自己血貯血を行っています。術中は最も安全で効果的な術式を選択し、自己血を使用することで他家血輸血を使用せず無輸血を目指し、術後は早期離床を心がけて、積極的リハビリを行い、リハビリスタッフ、看護師、MEとカンファレンスしながら退院を目指してゆきます。

リハビリ病院を経由して自宅退院の方が好ましい場合は、リハビリ病院を一緒に探して行きます。

日常診療においては循環器内科と密接に連携し、急性心筋梗塞やうっ血性心不全の緊急症例、胸部大動脈破裂や急性A型大動脈解離の緊急症例にも対応できる質の高い医療の提供に努めています。

当院は東京都CCUネットワーク、急性大動脈スーパーネットワークに加盟しております。

【対象疾患】

冠動脈疾患：狭心症、不安定狭心症、急性心筋梗塞、オフポンプ冠動脈バイパス術、オンポンプ冠動脈バイパス術

心臓弁膜症：大動脈弁狭窄症、大動脈弁閉鎖不全症、僧帽弁狭窄症、僧帽弁閉鎖不全症、TAVI、弁置換術、僧帽弁形成術、感染性心内膜炎、三尖弁輪形成術

不整脈疾患：心臓弁膜症に合併した心房細動、メイズ手術、肺静脈隔離術、左心耳切除術

大動脈疾患：胸部大動脈瘤、胸腹部大動脈瘤、急性大動脈解離 (A型・B型)、慢性大動脈解離、ステントグラフト治療、オープンステントグラフト治療

重症心不全：補助循環 (ECMO, IABP など)、補助人工心臓 (体外設置型・Impella 補助循環用ポンプカテーテルなど)

肺動脈疾患：肺塞栓症、肺高血圧

成人先天性心疾患：心房中隔欠損症、心室中隔欠損症、成人先天性心疾患に伴う心不全

【ご紹介のポイント】

心臓・大動脈疾患でお困りの患者さん

高齢で手術できるか分からないけど、どうしたら良いのだろうか？

手術が必要かどうかは、分からないけど心臓血管外科専門医・指導医からの説明を患者さん、ご家族にしてあげて欲しい

という場合は是非、ご紹介いただくと幸いです。

大きな手術は大学病院でしかできないのではないかとお思いの場合も、気軽に相談いただければ、当院で対応できるか、お答えいたします。

当科の最新情報はホームページでご確認ください。

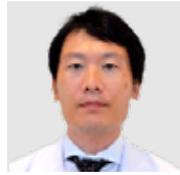


血管外科

スタッフ紹介



氏名	河田 光弘 (かわた みつひろ)
役職	心臓血管外科部長 血管外科部長
出身	浜松医科大学 (平成9年卒)
資格	・外科指導医 ・心臓血管外科修練指導者 ・循環器専門医 ・胸部ステントグラフト指導医 ・TAVR 指導医 他



氏名	松倉 満 (まつくら みつる)
役職	専門部長
出身	京都府立医科大学 (平成17年卒)
資格	・心臓血管外科専門医認定機構 心臓血管外科専門医 ・日本脈管学会 脈管専門医 ・日本循環器学会 循環器専門医 他



氏名	乾 明敏 (いぬい あきとし)
役職	医長
出身	東京大学 (平成19年卒)
資格	・日本外科学会 外科専門医 ・心臓血管外科専門医認定機構 心臓血管外科専門医



氏名	牧野 能久 (まきの よしひさ)
役職	専門医長
出身	東北大学 (平成19年卒)
資格	・心臓血管外科専門医認定機構 心臓血管外科専門医 ・日本脈管学会 脈管専門医 ・血管外科学会認定 血管内治療医 他



氏名	村田 知洋 (むらた ともひろ)
役職	医員
出身	和歌山県立医科大学 (平成22年卒)
資格	・外科認定医 専門医 ・心臓血管外科専門医 ・胸部ステントグラフト実施医 (Gore TAG) ・TAVR 実施医 (SAPIEN シリーズ)

非常勤医

高山 利夫	(たかやま としお)
田所 優	(たどころ ゆう)
戸谷 直樹	(とや なおき)
松原 和英	(まつばら かずよし)
渡部 晃士	(わたなべ こうじ)

【診療科紹介】

2021年度から新体制となり専門部長(診療責任者)松倉 満、牧野能久の2名体制で診療を行っています。水曜日と金曜日に専門外来を行っており、その他は手術日ですが緊急症例は可能な限り受け入れています。大学病院と違い80歳台半ばを過ぎた多様な背景疾患を有する患者が、毎週10件程度紹介されますので、個々の症例に対して最適な治療戦略を立案するべく葛藤しています。特に高齢患者の末梢血管病変の治療方針を決める場合には、絶えず追加治療を見据えた"Life time management"を念頭におく必要があります。従来 of 外科的バイパス術や血管内治療に代表される血行再建治療に加えて、新規に生み出されている様々な補助療法を駆使して"可能な限り低侵襲で、かつ効果が長持ちするオーダーメイド治療"を実現することを目標としています。安心して患者さんを紹介頂ける基幹病院として、血管診療の未来を築く気概を持って真摯に診療に取り組んで参ります。

【対象疾患】

血管外科の性質上、腹部大動脈瘤、下肢動脈疾患、下肢静脈瘤が診療の中核となりますが、他院で治療困難な難治性の腰下肢痛や下肢浮腫、難治性潰瘍の治療にも積極的に取り組んでいます。他院で受け入れ困難な腹部大動脈瘤破裂や急性大動脈解離の手術治療も心臓血管外科と協力して積極的に行っています。下肢動脈疾患に関しては東大病院と同様に、高難度の複雑な下肢バイパスを定期的に行っています。その他に腎動脈瘤や脾動脈瘤を代表とする内臓動脈瘤の治療も行っております。透析シャント関連の紹介に関しては、可能な限り迅速に対応するよう心がけております。

【ご紹介のポイント】

年間300件を超える新規紹介を受けており、遠方から治療を希望して来院される方もおられます。手術適応とならない方も積極的に治療介入するよう心がけております。外来日でない曜日で緊急のご相談がありましたら、医療連携係を介して対応致します。

当科の最新情報はホームページでご確認ください。



脳神経外科／脳血管内治療科

スタッフ紹介



氏名 小原 健太
(おはら けんた)

役職 医長

出身 東京医科歯科大学 (平成 23 年卒)

資格 ・医学博士
・日本脳神経外科学会専門医
・日本脳神経血管内治療学会専門医
・日本脳卒中の外科学会技術 認定医
・日本神経内視鏡学会技術認定医 他



氏名 高梨 成彦
(たかなし しげひこ)

役職 専門部長

出身 帝京大学 (平成 14 年卒)

資格 ・日本脳神経外科学会専門医
・日本脳神経血管内治療学会専門医

常勤医

横井 利光 (よこい としみつ)

非常勤医

幸田 俊一郎 (こうだ しゅんいちろう)

西山 恭平 (にしやま きょうへい)

上野 俊昭 (うえの としあき)

井上 智弘 (いのうえ ともひろ)

辛 正廣 (しん まさひろ)

小泉 聡 (こいずみ さとし)

後藤 芳明 (ごとう よしあき)

長谷川 洋敬 (はせがわ ひろたか)

【診療科紹介】

当センターは一次脳卒中センターとして脳卒中学会から認定されており、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血を含めた脳卒中に対する治療を積極的に行っております。急性主幹動脈閉塞に対するtPA静注療法と経皮的脳血栓回収術は24時間365日実施できる体制を維持しております。当科は従来脳血管内治療を中心に手術を行っていましたが、2023年より脳血管外科手術および脳腫瘍を含めた開頭術、神経内視鏡手術を導入しており、多様な治療選択肢の中から医療提供を行っております。また、脳卒中のための集中治療室である脳卒中ケアユニットを有し、2024年は従来の6床から12床に増床し、より積極的に脳卒中患者さんを受け入れるための体制を構築しております。脳神経内科およびリハビリ科と協力し、さらに多職種が連携して、発症早期の脳卒中症例の治療にあたります。さらに、当センターの使命として高齢者特有の脳神経外科医療を数多く実践しております。特に正常圧水頭症に関しては、水頭症専門外来を設置し厳密に適応を考慮した上で年間50例以上の手術を実施しております。

高齢者疾患のみに特化していると思われるかもしれませんが、脳神経外科としては年齢に限らず、幅広い脳神経外科医療を提供しています。体制拡大とともに、手術件数も経時的に増加しております。

【対象疾患】

脳血管障害に対して脳血管外科、脳血管内治療の利点を活かしつつ、より適切な治療選択を提示しております。例として脳動脈瘤に対するクリッピング術、コイル塞栓術、頸動脈狭窄症に対する頸動脈内膜剥離術、頸動脈ステント留置術があります。頭蓋

内主幹動脈閉塞症に対するバイパス術や硬膜動静脈瘻、脳動静脈奇形に対する塞栓術も実施しております。

髄膜腫などの良性腫瘍に加えて、神経膠腫、転移性脳腫瘍、悪性リンパ腫などの悪性腫瘍にも対応しております。術後放射線治療や化学療法も他科と連携し実施しているため、多くの疾患について当院で治療を完遂することができます。また、正常圧水頭症に対しては3種類のシャント手術(脳室腹腔シャント、脳室心房シャント、腰椎腹腔シャント)から治療選択を行っております。

【ご紹介のポイント】

通常外来は予約を要しますが、予約外の受診もお受けいたします。緊急症例は救急外来で即時対応しております。

脳卒中ホットライン(連絡先:080-4116-1141)にて脳神経外科/脳神経内科医師が直通で対応し、スムーズにご紹介のお受け入れが可能です。

当センターの重点医療として脳卒中を含めた心血管医療がございます。高齢者に限らず多数の症例を受け入れており、脳卒中医療は当院の得意とするところ。また、脳腫瘍を含めて脳神経外科手術も積極的に行っております。高齢者特有の疾患として正常圧水頭症、慢性硬膜下血腫も数多くご紹介いただいております。小児疾患を除きほぼ全ての疾患が対応可能ですので、疾患に限らず是非当院にご紹介をいただければと存じます。

当科の最新情報はホームページでご確認ください。



呼吸器外科

スタッフ紹介

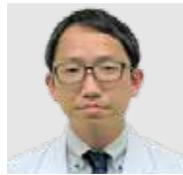


氏名 安樂 真樹
(あんらく まさき)

役職 副院長
部長兼務

出身 鹿児島大学 (平成8年卒)

資格 ・外科専門医
・呼吸器外科専門医
・呼吸器外科評議員 他



氏名 土屋 武弘
(つちや たけひろ)

役職 専門部長

出身 筑波大学 (平成18年卒)

資格 ・外科専門医
・呼吸器外科専門医
・呼吸器外科評議員 他



氏名 登 祐哉
(のぼり ゆうや)

役職 医員

出身 名古屋大学 (平成25年卒)

資格 ・外科専門医
・呼吸器外科専門医
・がん治療認定医

【診療科紹介】

呼吸器外科：呼吸器外科は、3名の呼吸器外科専門医が胸部領域、特に肺、縦隔、胸膜、胸壁などの病気の診断、治療（手術など）を行っています。当院では、基本的に「内視鏡手術：胸腔鏡手術」を行っており、疾患の進行具合に合わせて適宜「開胸手術」にも対応しています。

内視鏡手術：創部は1cm前後を2-3個、3-5cm前後を1個、計3-4個の創部で行います。肺癌の標準術式である肺葉・区域切除は計4個の創部、他手術は3個の創部で行っています。

開胸手術：8-15cm前後の創部で手術を行います。肋骨や筋肉は適宜切除・温存します。

当科の特徴：他の病院と比較して、当院は比較的に高齢の患者さんが多く、その特徴として手術をされる多くの方に「心臓の病気」や「腎臓の病気」、「糖尿病」など様々な病気を合併していることが挙げられます。術前のフレイル評価等を多くの患者様に施行するなど、当院では病院全体が高齢者の治療に特化しており、そうした病院ならではの特徴を生かし、他科と連携し手術前後の体調管理を行います。高齢者に対する周術期のリスク管理は他年齢層のリスク管理にも繋がるため全体的に安全な手術を心がけております。また、10～20歳代の若年者の気胸などにも対応しております。

【対象疾患】

各診療科と連携して低侵襲かつ積極的に外科的切除・生検（診断・治療）を行っています。

- **悪性腫瘍**：原発性肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍など
- **良性腫瘍**：過誤腫など
- **良性疾患**：気胸（自然気胸・続発性気胸）
- **感染性疾患**：膿胸・肺膿瘍（非定型抗酸菌症・アスペルギルスなど）
- **胸部外傷**：外傷性血胸もしくは外傷性気胸
- **その他**：原因不明なリンパ節腫大、胸膜肥厚など

上記疾患に関して、若年から超高齢者まで幅広く対応しております。

【ご紹介のポイント】

ご紹介いただいた後、速やかに全身精査を行います。通常の検査に加えて、フレイル評価等を行い患者さん一人一人に合った医療を検討していきます。治療内容に関しては、呼吸器内科・放射線治療科・病理診断科と連携し検討いたします。

70-80歳代の高齢者はもちろんのこと、若年者の加療にも対応しております。

ご年齢に関係なく疑問に思うこと、お聞きになりたいこと、気になることがある際、お気軽にご相談ください。

当科の最新情報はホームページでご確認ください。



整形・脊椎外科

スタッフ紹介



氏名 宮崎 剛
(みやざき つよし)
役職 部長
出身 東京大学 (平成 5 年卒)
資格 ・日本整形外科学会専門医
・日本リウマチ学会認定専門医
・日本リウマチ学会評議員 他



氏名 早川 謙太郎
(はやかわ けんたろう)
役職 専門部長
出身 東京大学 (平成 14 年卒)
資格 ・日本整形外科学会専門医
・日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科専門医・指導医
・日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医 他



氏名 濱路 博
(はまじ ひろし)
役職 医長
出身 東京大学 (平成 7 年卒)
資格 ・日本整形外科学会認定整形外科専門医
・日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医
・日本骨粗鬆症学会認定医 他

常勤医

金子 雅子 (かねこ まさこ)
金子 泰三 (かねこ たいぞう)
河田 学 (かわた まなぶ)
大庭 雄太郎 (おおば ゆうたろう)

非常勤医

時村 文秋 (ときむら ふみあき)
石橋 英明 (いしばし ひであき)
六水 依人 (あなみず よりと)

【診療科紹介】

加齢に伴う関節疾患、外傷、脊椎疾患、絞扼性神経障害などを主に整形外科領域全般について扱っています。四肢・関節の腫れや痛み、頸部痛・腰痛、肩関節痛、手足のしびれ、歩行障害などの症状を対象としております。

人工膝関節置換術、人工股関節置換術、頸椎椎弓形成術、腰椎椎弓切除術、インストルメント使用脊椎固定術、BKP（経皮的椎体形成術）、手根管開放術、大腿骨近位部骨折に対する骨接合術、人工骨頭置換術などを行っています。

<専門性を持つ医師の集合体としてのチーム医療>

当科は専門性の必要な脊椎外科・股関節外科・膝関節外科をベースとし、各専門医の協力・連携により相乗効果を発揮したチーム医療を行います。

<高齢者にマッチした入院・周術期管理>

当院は内科全般、歯科口腔外科、精神科など全科をもつ総合病院です。入院中のサポートはもちろん、外来通院の手術計画段階から患者様の特性に応じた各科介入を行い治療の安全性を高めます。

<教育病院としてベテラン医師と若手医師の協調>

当科は東京大学を基幹とする整形外科専門研修プログラムに参加しています。ベテラン医師の技術・経験と若さ溢れる後期研修医のエネルギー・機動力がミックスされた医療を行います。

【対象疾患】

頸部から下、四肢や体幹の骨折・外傷、変形・変性、神経障害、炎症性疾患などによる疼痛や機能障害など、整形外科領域の疾患を対象としています。

<脊椎疾患> 腰部脊柱管狭窄症、頸椎症性脊髄症、脊椎圧迫骨折後偽関節

<関節疾患> 変形性膝関節症、変形性股関節症

<外傷> 大腿骨頸部骨折、大腿骨転子部骨折、橈骨遠位端骨折、膝蓋骨骨折、肘頭骨折、上腕骨顆上骨折

<手外科疾患> 手根管症候群、肘部管症候群（絞扼性神経障害）

【ご紹介のポイント】

月・火・木・金の初診外来とは別に、火・金午後には脊椎外科の初診外来を開いています。また、毎週月・木・金後に人工関節初診外来・股関節外来・膝関節外来を開いています。

<脊椎外科で手術治療が必要になるタイミング>

①しびれや痛み、脱力（麻痺）などによって、上肢の機能（箸や書字、ボタンはめ・はずすなど手の細かい動作、関節の屈伸運動、筋力など）が低下している、②下肢の機能（立ち上がり、座り動作、歩行能力など）が低下しているなど

<膝・股関節で手術治療が必要になるタイミング>

心臓など特に大きな病気がなく、膝・股関節の痛みが原因で日常生活活動度 ADL に支障（家に引きこもりがちになるなど）が出ており、痛み止めの内服・関節注射・理学療法などで効果が認められない場合など

・整形・脊椎外科の手術の場合、手術を行うかどうかは最終的に患者さん自身のご希望に沿うような形で対応しています。

当科の最新情報はホームページでご確認ください。



皮膚科

スタッフ紹介



氏名 種井 良二
(たねい りょうじ)

役職 部長

出身 北里大学 (昭和 62 年卒)

資格 ・皮膚科専門医

常勤医

宮澤 理恵子 (みやざわ りえこ)

【診療科紹介】

- 皮膚病変を臨床診断し、高齢者の特性（内科・外科的合併疾患の有無、日常生活動作の状態、要介護度、生活状況など）を考慮して診療方針を決定します。必要な場合は各種検査（血液・尿検査、超音波・CTなどの画像検査、ダーモスコピー＜皮膚病変の拡大・深達性観察検査＞、皮膚生検、皮膚アレルギー反応検査＜パッチテスト、プリックテスト、内服テストなど＞など）を行い、最終的に確定診断をくだします。
- 治療は疾患により外用、内服、注射、点滴、光線、放射線、手術等の各療法を単独・併用して行います。皮膚病変のみならず、個々の患者さんのQOL（quality of life：生活の質）に配慮した治療を実施しています。
- 治療や診断により高度な専門性（整容的手術、集学的治療を要する悪性腫瘍など）が必要と考えられる場合は他の専門拠点病院へ紹介させていただくことがあります。また、入院患者さんの皮膚疾患が治療により急性期を過ぎて長期の加療・ケアを要する慢性期の状態になり、在宅での治療継続が困難な場合は、長期療養型病床の病院への転院をお願いすることもあります。

【対象疾患】

- 一般的皮膚疾患（湿疹・皮膚炎、虫刺され、熱傷、水虫、疥癬、爪疾患）の診療
- 痒み疾患（皮脂欠乏性湿疹、皮膚掻痒症、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、薬疹・中毒疹、痒疹、疥癬等）の精査や治療

- 重症の皮膚感染症（带状疱疹や丹毒・蜂巣織炎など）の治療
- 水疱性類天疱瘡の入院治療
- 膠原病関連疾患（皮膚筋炎、強皮症、血管炎など）の皮膚症状の診断と治療
- 下肢の皮膚潰瘍や血行障害性皮膚変化の精査と治療
- 口腔粘膜疾患の診断と治療
- 乾癬、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹の生物学的製剤やヤヌスキナーゼ阻害薬の治療も承認病院として実施可能です。
- 皮膚癌（日光角化症、ボーエン病、基底細胞癌、有棘細胞癌など）の診断と治療

【ご紹介のポイント】

- 皮膚や口腔・陰部など視診が可能な領域の症状であればどのような症状でも診察致します。
- 高齢者に限らず、成人患者さんの診療も行っています。
- 重症 / 広範囲熱傷は三次救急のある施設へのご紹介をお願いします。
- 集学的治療を要する悪性腫瘍が疑われる場合は大学病院や癌専門病院への紹介もご検討ください。
- 美容皮膚科で通常行われるレーザー治療、ケミカルピーリングなど自費診療が対象となる症状については対応しておりません。

当科の最新情報はホームページでご確認ください。



泌尿器科

スタッフ紹介



氏名 粕谷 豊
(かすや ゆたか)

役職 部長

出身 愛媛大学 (平成2年卒)

資格 ・日本泌尿器科学会専門医・指導医
・日本がん治療認定医機構暫定教育医



氏名 津坂 恭央
(つざか やすお)

役職 専門医長

出身 浜松医科大学 (平成18年卒)

資格 ・日本泌尿器科学会専門医・指導医
・日本がん治療認定医機構がん治療認定医
・日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定医 他

常勤医

村田 弘明 (むらた ひろあき)

非常勤医

永田 卓士 (ながた たかし)

【診療科紹介】

当科は排尿障害（前立腺肥大症・過活動膀胱・低緊張性膀胱を含む神経因性膀胱・夜間頻尿）尿路上皮腫瘍（腎細胞癌・尿路上皮癌＜膀胱癌・尿管癌・腎盂癌＞・前立腺癌・副腎腫瘍）尿路上皮癌、尿路上皮癌に対する治療を行っています。

腎臓癌：腹腔鏡下手術、あるいは免疫チェックポイント阻害剤+TKI療法

尿路上皮癌：腹腔鏡下手術、膀胱癌はPDD（光学的診断による）経尿道的膀胱腫瘍切除術、抗がん剤治療、免疫チェックポイント阻害剤、エンホルツマブ療法など

前立腺癌：腹腔鏡下小切開前立腺全摘術（今後はダビンチロボット手術に移行予定）、ホルモン療法、ホルモン療法+IMRT（放射線）

前立腺肥大症：ツリウムレーザー蒸散、経尿道的前立腺切除（TUR-P）

特に経尿道的前立腺切除（TUR-P）は他院に比べ圧倒的な経験数を誇っています。

手術のレベルはかなり良いと考えています。

【対象疾患】

- 腎細胞癌
- 尿路上皮癌＜膀胱癌・尿管癌・腎盂癌＞
- 前立腺癌
- 副腎腫瘍
- 前立腺肥大症
- 過活動膀胱
- 低緊張性膀胱を含む神経因性膀胱
- 夜間頻尿
- 尿路上皮癌（腎結石・尿管結石・膀胱結石）
- 尿路感染症（結石性腎盂腎炎・急性前立腺炎・精巣上体炎）
- 尿管狭窄
- 腎盂尿管移行部狭窄

予約を原則といたしますが、予約外でも緊急時には救急外来にて対応しております。

【ご紹介のポイント】

血尿、尿の回数が多い、尿が出ない（出づらい）、おしっこが漏れてしまう、尿が出なくなった。排尿痛、わき腹の痛み+発熱、PSAが高値などありましたら受診依頼をお願いします。

泌尿器科に関して気にかかることがあれば気楽にご紹介ください。

当科の最新情報はホームページでご確認ください。



スタッフ紹介



氏名 善本 三和子
(よしもと みわこ)

役職 部長

出身 筑波大学 (平成元年卒)

資格 ・日本眼科学会眼科専門医
・身体障害者福祉法指定医
・難病指定医 他



氏名 池上 靖子
(いけがみ やすこ)

役職 医長

出身 奈良県立医科大学 (昭和 61 年卒)

資格 ・日本眼科学会眼科専門医
・身体障害者福祉法指定医
・難病指定医 他



氏名 戸田 淳子
(とだ じゅんこ)

役職 医長

出身 東京女子医科大学 (平成 10 年卒)

資格 ・日本眼科学会眼科専門医
・身体障害者福祉法指定医
・難病指定医



氏名 大島 博美
(おおしま ひろみ)

役職 医長

出身 群馬大学 (平成 16 年卒)

資格 ・日本眼科学会眼科専門医
・身体障害者福祉法指定医
・難病指定医 他



氏名 山本 裕樹
(やまもと ひろき)

役職 専門医長

出身 三重大学 (平成 19 年卒)

資格 ・日本眼科学会眼科専門医
・身体障害者福祉法指定医
・難病指定医 他

常勤医

高尾 博子 (たかお ひろこ)

【診療科紹介】

白内障、黄斑部疾患をはじめとする高齢者に多い眼疾患を幅広く診療しております。当科では、年間約 1,600 件の白内障手術を行っておりますが、常に最良の手術が安全に提供できるよう、スタッフ一丸となり取り組んでおります。手術前の検査やご説明はすべて外来通院時 (1-3 回程度) に行うため、お一人で意思決定が難しい患者様では、ご家族にも説明をさせていただき、すべての患者様が術後早期にご紹介元への通院再開ができるように心がけております。

白内障手術は、入院当日に手術 (月曜から金曜) を行い、ご希望に合わせて日帰り入院または 1 泊 2 日程度の入院手術で対応しておりますが、当科の特徴である、日帰り入院では、手術前後 (日中) に病室でお休みいただくことができるため、ご高齢の方でも安心して手術を受けていただくことができます。また術後の点眼治療などお一人では難しい患者様の場合には、退院時に病棟看護師スタッフからご家族様に直接説明をさせていただきます。

硝子体出血や黄斑円孔、網膜前膜、網膜剥離などでは小切開硝子体手術 (年間約 60 件)、加齢黄斑変性・網膜静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫・糖尿病黄斑浮腫には抗 VEGF 療法 (年間約 400 件)、緑内障に対する低侵襲緑内障手術なども、患者様の状態に合わせて可能な治療を提供しております。

【対象疾患】

- **白内障**：ほぼ全例が局所麻酔下の小切開白内障手術ですが、認知症などで全身麻酔が必要な方では、全身麻酔のリスクと手術適応を考えた上で、術前に複数回来院していただきます。

- **網膜疾患**：加齢黄斑変性、糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症、近視性脈絡膜新生血管など抗 VEGF 療法や網膜光凝固 (レーザー治療) を必要とする疾患
- **網膜疾患**：網膜前膜、黄斑円孔、硝子体出血、網膜剥離など硝子体手術を必要とする疾患
- **緑内障**：薬物療法を first choice とし、選択的レーザー線維柱帯形成術 (SLT)、手術治療では、現在は主に低侵襲緑内障手術 (線維柱帯切開術・眼内法) を行っております。
- ぶどう膜炎
- 眼瞼下垂、眼瞼内反症などの眼瞼疾患
- 翼状片や結膜嚢胞などの結膜疾患
- 角膜移植には対応していません。

【ご紹介のポイント】

白内障が高度に進行すると、手術時間が長くなり、本人の苦痛も大きく、さらに手術後の視力の回復も遅れます。また認知症が進行してからは、正確な検査が行えず、局所麻酔下の手術が不可能となり、全身麻酔で行うための心臓や肺などの精査が必要で、その結果手術を受けられない患者様もおられます。通院中の患者様には、タイミングのよい時期に、さらには局所麻酔下での手術が可能な年齢のうちに手術についてお話しいただき、どうかご紹介をいただけますようよろしくお願い申し上げます。また、眼科では多くの場合、散瞳薬を使った眼底検査が必要ですので、患者様には来院時車の運転はお控えいただけますように、お伝えください。

当科の最新情報はホームページでご確認ください。



耳鼻咽喉科

スタッフ紹介



氏名 鈴木 康弘
(すずき やすひろ)

役職 医長

出身 関西医科大学 (平成 10 年卒)

資格 ・耳鼻咽喉科専門医
・アレルギー専門医
・補聴器適合判定医 他

常勤医

渡邊 浩基 (わたなべ ひろき)

家坂 辰弥 (いえさか たつや)

非常勤医

川島 慶之 (かわしま よしゆき)

木村 百合香 (きむら ゆりか)

【診療科紹介】

耳鼻咽喉科では耳・鼻・口腔・咽喉頭・頸部領域の疾患の診療を行っています。この領域は、比較的若年層を中心とした疾患が多い一方、嚥下障害や加齢性難聴、めまいやふらつき、悪性腫瘍などの高齢者に多く認められる疾患もあります。しかし高齢者の場合は、様々な身体合併症により治療方針の決定に難渋することが少なくありません。当科は、日本でも数少ない高齢者専門の耳鼻咽喉科としての豊富な経験を元に、「高齢だから」という理由でひとくくりにせず、患者様お一人お一人と全人的に向き合い、高齢者のQOL（生活の質）向上を目的とした診療に努めております。

補聴器専門外来に加えて、鼻副鼻腔専門外来、耳手術専門外来、嚥下障害専門外来を設置し、必要な症例には短期入院による手術加療を積極的に行っております。また国が重要政策として掲げているアレルギー性疾患の1つであるスギ花粉症ですが、その舌下免疫療法、さらに生物学的製剤による治療も行っております。高度難聴の方に対する人工内耳手術の施設認定を取得しており、当院リハビリ科と連携する体制を整えております。

各専門外来の受診を希望される場合は、まず平日午前一般外来の予約をしていただき、診察後に当科にて予約を取得させて頂いております。

【対象疾患】

耳：加齢性難聴・慢性中耳炎・真珠腫性中耳炎・突発性難聴・顔面神経麻痺（人工内耳手術を行う施設認定を取得しております。）

鼻：慢性副鼻腔炎・好酸球性副鼻腔炎・術後性上顎洞嚢胞・鼻中隔彎曲症・アレルギー性鼻炎・副鼻腔乳頭腫・睡眠時無呼吸症候群（構造評価から無呼吸テスト、必要に応じた治療まで行う体制が整っています。）

のど：声帯ポリープ・ポリープ様声帯・反回神経麻痺・嚥下障害・急性扁桃炎・扁桃周囲膿瘍・急性喉頭蓋炎（気道緊急が疑われる症例は、医療連携係で当科にご相談ください。病床の具合によっては応じられない事があります。）

頭頸部腫瘍：頭頸部がん・甲状腺腫瘍・唾液腺腫瘍（検査・診断を行ったうえで、東京医科歯科大学等の大学病院に紹介しております。）

【ご紹介のポイント】

月・水・金は2診体制のため、聴力検査等の検査が混雑していることが多いです。

補聴器希望でご紹介いただく場合は、必要な検査に時間を要するため、火・木の予約枠を取得して頂きますと幸いです。

嚥下障害の診察をご希望の場合は、奇数週の水曜日に嚥下外来を行っておりますので、直接こちらの予約を取得することが可能です。

頭頸部良性・悪性腫瘍に関しては、検査・診断まで行う事は可能ですが、診断後は大学病院等に紹介させて頂いております。

気道緊急が疑われる症例につきましては、医療連携係経由でご相談ください。

人員や病床の混雑状況によってはお受けできない可能性がありますので、ご了承ください。

当科の最新情報はホームページでご確認ください。



歯科口腔外科

スタッフ紹介



氏名 平野 浩彦
(ひらの ひろひこ)

役職 部長

出身 日本大学松戸歯学部 (平成2年卒)

資格 ・日本老年歯科医学会認定医、指導医、専門医
・摂食機能療法専門歯科医師
・歯科医師臨床研修指導医 他



氏名 齊藤 美香
(さいとう みか)

役職 医長

出身 日本大学松戸歯学部 (平成7年卒)

資格 ・日本老年歯科医学会専門医・指導医
・日本顎咬合学会かみあわせ認定医
・歯科医師臨床研修指導医

常勤医

森 美由紀 (もり みゆき)

非常勤医

高濃 智史 (たかの ともふみ)

大鶴 洋 (おおつる ひろし)

【診療科紹介】

歯科口腔外科では、様々な併存疾患をお持ちで、服用薬剤の影響、疾患による身体機能低下などにより、歯科治療などが困難な高齢者の方々へ対応を広く行っております。対象は、在宅療養者、介護保険施設入所者などの方への対応もさせていただきます。治療の際は、必要に応じて他科医師等と連携し包括的な評価を実施し、安全安心な医療管理の下に歯科治療を行っております。また、認知症高齢者の方への対応も行っております。以上の要介護高齢患者の方への口腔衛生管理・指導・助言などを、歯科衛生士が中心となり実施しております。

オーラルフレイル、口腔機能低下、摂食嚥下障害に対する評価および管理指導なども、専用の機器を整備し実施しております。

診療スタッフは常勤医3名、非常勤医2名、研修医2名です。

スタッフ（以下、重複あり）は日本老年歯科医学会指導医（2名）・専門医（3名）、摂食機能療法専門歯科医師（1名）、口腔外科学会指導医・専門医（1名）・認定医（1名）、日本補綴歯科学会認定医（1名）であり、質の高い医療の提供に努めております。

また、当院は日本老年歯科医学会認定施設であり、高齢者の診療を通じて、研修医育成、大学の選択実習受け入れなどを積極的に行っています。

【対象疾患】

- 既往疾患（抗血栓療法実施中の循環器疾患、造血管疾患、糖尿病など）を有する方の歯科治療は、主治医と連携し治療を行います。骨吸収抑制薬（ビスホスホネート製剤など）使用例では、主治医と連携しつつ抜歯を行います。また薬剤関連顎骨壊死例の診察を行います。
- 認知症高齢者への歯科治療、口腔衛生管理を行います。
- オーラルフレイル、口腔機能低下、摂食嚥下障害の症状に対し、評価および管理指導などを行います。
- 習慣性あるいは陳旧性顎関節脱臼例の診察を行います。
- 白板症など、口腔粘膜疾患の診察を行います。
- 顎顔面口腔の膿瘍、外傷の診察を行います。
- 地域歯科医師会、医師会と連携します。依頼内容が終了後、紹介医へ返送します。

【ご紹介のポイント】

高齢者の方々の口腔環境はここ20年で大きく変化し、歯科医療の需要も変化を遂げました。つまり、う蝕、歯周疾患などの口腔疾患治療また義歯作成だけでなく、口腔機能（摂食嚥下など）の維持回復への支援を担うことも求められつつあります。当センターにおいて2021年にフレイル予防センターが設立され、当科でも平野部長がオーラルフレイルに対する有責者となっております。各科Drと連携し、専門性を生かした取り組みを行っています。

当科の最新情報はホームページでご確認ください。



スタッフ紹介



氏名	青景 聡之 (あおかげ としゆき)
役職	部長 特定集中治療室 部長
出身	日本医科大学 (平成 16 年卒)
資格	・日本内科学会 総合内科専門医 ・日本循環器学会 循環器専門医 ・日本集中治療医学会 集中治療専門医 ・日本救急医学会 救急専門医 ・日本呼吸療法医学会 呼吸療法専門医 他

【診療科紹介】

当センターの救急科は、主として急患対応および重症患者の集中治療を担当します。2024年4月に診療科として認められたばかりであり、現在救急医は常勤医1名、非常勤医1名の合計2名とまだまだ発展途上ですが、内科医師の協力のもとに年間4,000件前後の救急車の応需を行っております。夜間においても、内科系医師と外科系医師が協力し、24時間体制で救急患者を受け入れています。

1次および2次救急の急患対応を主として行っており、肺炎、転倒による打撲、発熱など、高齢者が日常診療で遭遇しやすい疾患を得意としています。また、循環器内科、心臓血管外科、脳神経内科、脳神経外科は、CCUネットワーク、大動脈スーパーネットワーク、脳卒中ホットラインからの急患を受け入れています。

私たちは、患者一人一人の希望や生き様を理解し、単に救命するだけでなく、その人の病状、希望、提供可能な治療、家族の考え、社会的背景を理解し、共感の心を持って治療オプションを提案できる救急の形を目指しています。

【対象疾患】

各診療科と協力して、急患の初期対応を行います。

- 心不全
- 肺炎
- 消化器疾患
- 意識障害
- 敗血症
- 外傷一般

【ご紹介のポイント】

当救急科は、高エネルギー外傷や重症患者の治療を主とする救命センターではありません。日常的に遭遇する急病や、小さな事故によるケガ、突発的な発熱など、地域に密着した救急医療を行っています。



麻酔科

スタッフ紹介



氏名 小松 郷子
(こまつ きょうこ)
役職 部長
出身 岐阜大学 (昭和 60 年卒)
資格 ・日本専門医機構認定専門医
・日本麻酔科学会認定指導医
・日本麻酔科学会代議員 他



氏名 縄田 瑞木
(なわた みずき)
役職 専門部長
出身 群馬大学 (平成 11 年卒)
資格 ・日本専門医機構認定専門医
・日本麻酔科学会認定指導医
・日本麻酔科学会代議員 他



氏名 久保田 涼
(くぼた りょう)
役職 医長
出身 日本医科大学 (平成 12 年卒)
資格 ・日本麻酔科学会認定専門医
・日本老年麻酔学会認定医
・臨床研修指導医 他

常勤医

清水 啓介 (しみず けいすけ)
芳野 泰史 (よしの やすふみ)
鈴木 菜津希 (すずき なつき)
兒玉 瑞穂 (こだま みずほ)

非常勤医

内田 博 (うちだ ひろし)
脊山 雅子 (せやま まさこ)
露崎 仁志 (つゆさき ひとし)
市川 希帆子 (いちかわ きほこ)
佐野 恵理香 (さの えりか)
河邊 亮統 (かわべ あきと)
藤岡 萌 (ふじおか もえ)

【診療科紹介】

手術のための周術期全身管理を主として行っています。常勤医 7 名と週 3 日以上非常勤医 2 名は全員が専門医以上の資格を保有しており、それ以外にも専門医資格を有する週 1 日の非常勤医と合わせて質の高い麻酔管理を提供しています。

高齢者は体力が低下しているだけでなく、数多くの病を抱えていることが多いため、手術の際にはより多くの知識や高い技術が必要になります。当麻酔科では術前からいねいな検査を実施し、身体所見だけでなく、手術前からの栄養介入や運動療法も提案しつつ、生活環境やご家族とのかかわりも含め、患者さんひとりひとりに最善の麻酔方法を考えます。そして十分な説明を行ったうえで、高齢者の手術麻酔に習熟したスタッフが、エコー・脳波解析モニター・心機能モニターなどを含めた最新の設備や機器を用いて診療を行っています。

【対象疾患】

外科・整形脊椎外科・心臓血管外科・呼吸器外科・脳神経外科・泌尿器科・耳鼻咽喉科・循環器内科での TAVI・精神科の電気けいれん療法 (ECT)・眼科・歯科口腔外科・血液内科の骨髄液採取術を含むすべての診療科の手術麻酔に対応しています。また、緩和ケア内科入院中の患者さんの疼痛管理にも対応しています。

【ご紹介のポイント】

特に以下のような患者さんの手術が必要な場合には、まず適切な診療科へご紹介ください。

- 90 歳以上の超高齢患者さん
- 高度認知症患者さん
- 糖尿病や透析などの合併症をお持ちの高齢患者さん
- 心臓や呼吸器疾患をお持ちの高齢患者さん
- その他、特殊な病気をお持ちの高齢患者さん
- ほかの病院では手術が難しいと言われた病気をお持ちの高齢患者さん

当科の最新情報はホームページでご確認ください。



リハビリテーション科

スタッフ紹介



氏名	加藤 貴行 (かとう たかゆき)
役職	専門部長
出身	旭川医科大学 (平成2年卒)
資格	・リハビリテーション科専門医 ・日本神経学会神経内科専門医・指導医 ・日本内科学会総合内科専門医 他

常勤医

正田 奈緒子 (しょうだ なおこ)

非常勤医

金丸 晶子 (かねまる あきこ)

【診療科紹介】

リハビリテーション科は常勤医師2名と専攻医1名、理学療法士 (PT) 16名、作業療法士 (OT) 5名、言語聴覚士 (ST) 3名が所属しています。主に入院患者を対象とした急性期リハビリテーションを行っています。

高齢の救急搬送患者はADLが既に低下していたり、入院後に低下する可能性も高いため、急性期治療と共に、病棟での離床やリハビリテーションを進めることで、患者の在宅復帰を推進していきたいと考えています。入院患者の各診療科担当医から依頼を受け、診察・適応の判断・リハビリテーション処方を行い、療法士によるリハビリテーションをおこないます。

脳卒中急性期患者が入院する脳卒中ユニット (SCU) では、毎朝のカンファレンスにリハ医・療法士も参加し、早期からのリハビリテーション介入を実施します。

地域包括ケア病棟では通常のリハビリテーションに加え、専従 PT と看護師が協働する病棟リハビリテーションも施行しています。

多職種による栄養サポートチーム (NST) には、リハ科医師・ST が参画して、毎週病棟を回診します。

理学療法などのリハビリテーション外来通院治療は行っていませんが、種々の障害の悪化や歩行障害などでお困りの患者さんにつきましては、診察や診断・生活指導等について、外来で拝見いたしますので御紹介ください。

【対象疾患】

全科の入院症例を対象としています。

- 脳血管障害 (脳梗塞、脳出血、くも膜下出血など)
- 運動器疾患 (大腿骨頸部骨折、大腿骨転子部骨折、変形性関節症、脊椎疾患など)
- 神経内科疾患 (パーキンソン病、多系統萎縮症、多発性硬化症、ギラン・バレー症候群など)

- 心疾患・動脈硬化性疾患 (心筋梗塞、心不全、心臓外科術後、閉塞性動脈硬化症など)
- 呼吸器疾患 (慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎など)
- 廃用症候群 (外科術後・感染症・消化器疾患等の急性疾患に伴う安静による動作能力の低下)
- 悪性腫瘍 (治療やがんの進行による身体への影響、廃用や悪液質など)
- 高次脳機能障害 (外傷性脳損傷、脳血管障害、脳炎など)
- ボツリヌス療法適応疾患 (脳血管障害後遺症等による痙縮、脳性麻痺、痙性斜頸など)
- 軽度認知障害 (高齢者いきいき外来)

【ご紹介のポイント】

①高齢者いきいき外来

軽度認知障害 (MCI) 専門外来です。初診時に神経学的診察と記憶検査等を実施し MCI の診断を行います。必要に応じて MRI・RI 検査等を施行して原因疾患を鑑別いたします。運動習慣や認知機能トレーニングについて、生活指導・フォローアップを行っています。

②ボツリヌス外来

主に脳血管障害後遺症による痙縮、痙性斜頸、成人脳性麻痺が対象です。診察・評価後、適応がある方に治療を行います。

初診：木曜午前、治療：火曜午後

③装具診

装具の適応や種類などを検討・作製します。お手持ちの装具の修理や装具に関する相談も受け付けています。

初診/再診：火曜午前

※いずれの外来も外来予約室専用電話

(☎ 03-3964-4890) より予約をお取りください

当科の最新情報はホームページでご確認ください。



放射線治療科

スタッフ紹介



氏名	角 美奈子 (すみ みなこ)
役職	部長
出身	熊本大学 (昭和 61 年卒)
資格	・日本医学放射線学会専門医 ・日本放射線腫瘍学会認定医 ・放射線治療専門医 ・難病指定医

非常勤医

稲松 孝思 (いなまつ たかし)

長島 一浩 (ながしま かずひろ)

【診療科紹介】

当センターでは、高齢者をはじめ複数の病気をお持ちの患者さんに、最適な治療を提供することを基本理念として、進歩した放射線治療の実践を目指しております。

近年の放射線治療は、放射線治療装置や治療技術、さらには画像診断の進歩により、必要な範囲に最適な放射線量を使用して治療する時代となっています。2021 年度に新装置を導入し、画像誘導放射線治療、定位放射線治療、強度放射線治療などの高精度放射線治療が可能となり、より安全で精度の高い治療を行っています。

画像誘導放射線治療は、画像情報を用いて位置合わせを行います。毎回の治療の際に骨格や病巣の位置を治療装置に搭載された画像システムで治療する位置を確認し、精度の高い最適な状態で治療を実施しています。この方法の導入により、従来より範囲を絞った放射線治療が可能となり、治療範囲が最適化され副作用の軽減につながっています。この技術は、根治的な治療から緩和的な治療まで、すべての放射線治療に応用されています。

【対象疾患】

放射線治療は全身のがん（一部の良性腫瘍を含む）で応用されています。当院で頻度の高いがんは、肺癌、血液がん（悪性リンパ腫や骨髄腫が含まれる）、直腸などの消化管癌や肝胆膵などの消化器癌、前立腺や膀胱などの泌尿器科癌があります。高齢者に多い皮膚癌や脳腫瘍への放射線治療を行っています。

● 定位放射線治療

定位放射線治療は、病巣に対し多方向からピンポイントに放射線を集中して照射する治療法です。精

度の高さと効率な局所制御効果により、切らずに病気を治す放射線治療の試みの一つです。

早期肺がんや転移性腫瘍（脳転移・肺転移・肝転移・副腎転移・脊椎転移など）に用いています。

● 強度変調放射線治療

強度変調放射線治療（IMRT）は、病巣に放射線を集中し隣接する正常組織への照射を少なくなるよう治療計画を作成します。作成された治療計画での照射により副作用を増加させることなく、より多い放射線を病巣に照射することが可能となります。当センターでは強度変調回転照射により、治療時間の短縮が可能となっています。

前立腺がんや頭頸部がん（耳鼻科領域のがん）、脳腫瘍、肺がんなど全身の病巣に対応し応用しています。

【ご紹介のポイント】

放射線治療科は、根治的治療から緩和的治療まで多くの患者さんに最適な放射線治療の提供に努めております。

緩和的治療では骨転移の疼痛緩和に 1 回照射を応用しており、通院での治療も可能としております。

治療に難渋されているがんについては、ぜひご相談ください。

当科の最新情報はホームページでご確認ください。



病理診断科

スタッフ紹介



氏名 新井 富生
(あらい とみお)
役職 部長
臨床検査科専門部長
出身 浜松医科大学 (昭和 59 年卒)
資格 ・病理専門医 / 分子病理専門医 / 病理専門
医研修指導医
・細胞診専門医 / 細胞診教育研修指導医
・臨床検査専門医・臨床検査管理医

常勤医

小松 明子 (こまつ あきこ)

研究所所属医師

石渡 俊行 (いしわた としゆき)

野中 敬介 (のなか けいすけ)

齊藤 祐子 (さいとう ゆうこ)

村山 繁雄 (むらやま しげお)

【診療科紹介】

病理診断科では、検査や手術で採取された組織や細胞を顕微鏡で検査して病理診断を行います。治療の適応を決めるコンパニオン診断にも対応しています。病理診断は病理専門医、細胞診専門医、神経病理専門医が担当します。正しい病理診断が正しい治療の第一歩であり、迅速かつ正確な診断を心がけ取り組んでいます。

- 生検、手術検体、術中迅速診断、細胞診、病理解剖、病理特殊検査など、病理学的検査全般を取り扱っています。
- 通常の病理組織検査を始めとして、免疫組織化学検査法、蛍光抗体法、in situ hybridization 法、酵素化学検査、電子顕微鏡検査、一部の遺伝子検査も可能です。
- 検査の結果は基本的に生検 2 日～約 1 週間、手術検体 5 日～約 10 日、細胞診 2、3 日以内で報告し、診療が速やかに進むように努めています。
- 病理診断に関するセカンドオピニオン外来を行っています。他病院で診断された病理標本をお持ち頂き、病理診断に関するご相談を受け付けています。
- 当センターの病理診断科は研究所老年病理学研究チーム（高齢者がん研究グループ、神経病理学研究グループ）と連携して、質の高い病理診断を目指しています。
- 受託解剖を受け付けています。他の医療機関から病理解剖を受け付けており、死因究明、公衆衛生の向上に努めています。

【対象疾患】

病理診断科では各診療科から依頼される検査を行っています。他の医療機関からの検査も一部受け付けています。

- 生検：内視鏡検査検体、皮膚、泌尿器をはじめ病変の生検検体など



氏名 六反 啓文
(ろくたん ひろふみ)
役職 医長
出身 東京大学 (平成 19 年卒)
資格 ・病理専門医 / 分子病理専門医
・日本病理学会学術評議員

非常勤医

熊坂 利夫 (くまさか としお)

坂本 啓 (さかもと けい)

倉田 盛人 (くらた もりと)

病院所属医師

荒川 晶 (あらかわ あきら)

原 愛徒 (はら まなと)

松原 知康 (まつばら ともやす)

- 術中迅速診断：手術中に治療の決定のための腫瘍の組織型、切除断端の評価
- 手術検体：内視鏡的切除検体、外科切除検体など
- 細胞診：喀痰、尿、体腔液検体、腫瘍の穿刺吸引検体など
- 病理解剖：死因究明、病態解明のためにご遺族の承諾のもと実施します。COVID-19、クロイツフェルト・ヤコブ病など感染症を有する疾患にも対応します。
- 受託解剖：他医療機関からの病理解剖を受け付けています。
- セカンドオピニオン外来：事前予約が必要ですが、他病院で実施された病理検査の病理診断に関するご相談を受け付けています。

【ご紹介のポイント】

病理検査の大部分は院内の各診療科からの依頼ですが、他医療機関から下記の検査を受け付けています。申し込みの詳細については病院のホームページをご覧ください。

- セカンドオピニオン外来：他の医療機関で病理診断された検査について、ご相談にのります。受診の際は事前に予約し、病理標本をお持ちください。
- 病理解剖：他の医療機関からの病理解剖を受け付けています。申し込みについては病理診断科に直接電話連絡してください。
- その他の病理検査：病理検査に関する全般についてご相談のある方はご連絡ください。最善の方法が見つかるようご相談に乗ります。

当科の最新情報はホームページでご確認ください。



臨床検査科

スタッフ紹介

	氏名 千葉 優子 (ちば ゆうこ)
	役職 部長
	出身 群馬大学 (平成7年卒)
	資格 ・日本内科学会総合内科専門医・指導医 ・日本糖尿病学会専門医・指導医・評議員 ・日本内分泌学会専門医・指導医 他

	氏名 新井 富生 (あらい とみお)
	役職 専門部長 病理診断科部長
	出身 浜松医科大学 (昭和59年卒)
	資格 ・病理専門医 / 分子病理専門医 / 病理専門 医研修指導医 ・細胞診専門医 / 細胞診教育研修指導医 ・臨床検査専門医・臨床検査管理医

非常勤医

森 秀明 (もり ひであき)

【診療科紹介】

臨床検査科は、現代医療における診断、治療、予防にとって不可欠な検査関連業務を担っています。検査の種類毎に部門が分かれており、当院では中央採血室、検体検査部門、細菌検査部門及び生理機能検査部門で構成されています。国家資格を有する臨床検査技師が検査を担当しております。また、学会認定資格（認定血液検査技師、超音波検査士など）を取得している技師も多数在籍し、より精度の高い検査を提供しております。

当院の臨床検査科では、以下のような特徴があります。

- 高齢者の QOL に配慮した安心・安全な検査対応を心がけています。
- 外来採血は午前8:00より開始し、外来診療前検査や外来化学療法などに迅速対応しています。
- 土日・休日夜間を含め、24時間体制で高齢者救急医療を支援しています。
- バスキュラーラボを立ち上げ、血管超音波検査の臨床要望に応えています。
- 栄養サポートチーム (NST) や感染制御チーム (ICT) など、チーム医療に参画して中心的に活動しています。
- 医療技術の向上はもとより、臨床研究開発にも積極的に協力しています。
- 新型コロナウイルスの PCR 検査は、終日、1時間以内に結果報告をできる体制を構築しています。

迅速かつ正確に検査結果を提供できるよう一丸となって取り組んでいます。

【対象疾患】

臨床検査科では各診療科から依頼される検査を行っています。

- **中央採血室**：外来診療前検査、外来化学療法前検査、術前検査など
- **検体検査部門**：血液・尿・便・体液分析、骨髄細胞形態鑑別、薬物検査など
- **細菌検査部門**：感染症の診断・治療にかかわる検査
- **生理機能検査部門**：従来の生理検査項目（心電図や肺機能検査、超音波検査など）の他、動脈硬化スクリーニング（血圧脈波伝播速度検査：ABI/PWV、24時間血圧測定など）、脳梗塞関連検査（ホルター心電図、脳波など）も実施
緊急検査については、臨床検査技師が当直業務を行い24時間体制で対応しております。また、院外で行われる外部委託検査も受付けています。

【ご紹介のポイント】

原則として検査は予約制となっております。各診療科を受診し、担当医からの検査依頼を受けて実施します。

C@RNACConnect は24時間オンライン予約が可能なシステムで、**診療科受診なしで検査のみ**を予約することも可能です。検査を実施後、当院より報告書を提出いたします。

予約可能な項目は以下の通りです。

- ホルター心電図
- 24時間血圧測定
- エコー検査（腹部、心臓、甲状腺、体表/血管）
なお、令和6（2024）年5月より、筋電図検査もC@RNACConnectで予約可能となりました。毎週火曜日の13:30枠/15:00枠の2枠を設定しております。是非、ご利用ください。

当科の最新情報はホームページでご確認ください。



放射線診断科

スタッフ紹介



氏名 鈴木 文夫
(すずき ふみお)

役職 医長

出身 東京大学 (平成 22 年卒)

資格 ・日本医学放射線学会放射線診断専門医
・日本専門医機構放射線科専門医
・日本医学放射線学会認定指導医
・医学博士



氏名 徳丸 阿耶
(とくまる あや)

役職 部長

出身 三重大学 (昭和 60 年卒)

資格 ・医学博士
・日本医学放射線学会放射線診断専門医
・日本専門医機構放射線科専門医
・日本医学放射線学会認定指導医 他



氏名 高田 晃一
(たかだ こういち)

役職 専門部長

出身 帝京大学 (平成 10 年卒)

資格 ・医学博士
・日本医学放射線学会認定指導医
・日本医学放射線学会放射線診断専門医

常勤医

佐々木 舞 (ささき まい)

日本医学放射線学会放射線診断専門医

吉岡 恭平 (よしおか きょうへい)

日本医学放射線学会認定放射線専門医

勝俣 恵 (かつまた めぐみ)

非常勤医

青木 茂樹 (あおき しげき)

明石 敏昭 (あかし としあき)

岡田 慎吾 (おかだ しんご)

狩野 洋輔 (かのう ようすけ)

津田 正喜 (つだ まさき)

寺田 一志 (てらだ ひとし)

中塚 智也 (なかつか ともや)

波多野 嗣久 (はたの つぐひさ)

治山 高広 (はるやま たかひろ)

平井 ミキ (ひらい みき)

味元 公子 (みもと きみこ)

渡邊 祐亮 (わたなべ ゆうすけ)

【診療科紹介】

当科では、全診療科の診断を支える「画像診断」を行っています。癌、脳血管障害、認知症、COVID-19 肺炎、心臓疾患、など救急から慢性期にわたるあらゆる疾患を迅速かつ正確に診断するために、適切な検査を選択し、そこで得られた「画像情報」を正しく診断し、診療の道筋を示すことが、私達の役目です。X線写真、CT、MRI、核医学、PET など最先端の検査機器を駆使するために、診断の専門家である放射線科医と、検査技術の専門家である診療放射線技師、看護師、事務スタッフなどが協力し、よりよい診療を皆さんに提供するために努めています。

特に当科は、高齢者に特化した画像診断、認知症の鑑別診断を得意としています。本邦は世界に先駆け、百寿者 8 万人の超高齢化社会に突入し、高齢になればなるほど増えてくる癌、認知症、血管障害は私達が立ち向かうべき大きな課題ですが、それぞれの領域で、センター先生方、多くのスタッフと手を携えながら健康長寿を目指し、「適切な時期の正確な診断」に邁進してまいります。2023年末に、アルツハイマー病の新しい治療薬が承認され期待がもたれていますが、当科では診療チームと手を携え、適応判断、副作用評価に必須のMRI、PET検査の円滑なマネジメント、正確な診断体制の構築を行っています。また当科は、研究所、認知症未来社会創造センターと強い連携を結び、高度の診療、研究レベルを維持しています。

【対象疾患】

放射線診断科では画像診断の対象となるあらゆる疾患に対応しています。

癌診断、認知症、血管障害、急性疾患など

【ご紹介のポイント】

放射線診断科で取り扱っている主な検査は以下の通りです。

●CT (コンピューター断層撮影)

マルチデテクターヘリカルCT、デュアルエナジー

CTによる薄いスライスでの画像診断による診断精度向上、検査被曝量の軽減を実現し、全身の多様な疾患で生じる画像所見を丁寧に拾い上げ正確な診断に結びつけています。

●MRI (磁気共鳴画像)

腹部領域ではMR 臍胆管造影による肝臓、胆道系検査、また拡散強調画像 ADC 検査を組み入れた前立腺癌検出に優れた撮像を施行しています。

MRIは中枢神経系の診断に有用な診断ツールです。脳血管障害の緊急に24時間対応しており、また通常検査に加えMRアンギオ、出血に敏感な撮像法、さらには3次元データによる解析で認知症を来すアルツハイマー病や嗜銀顆粒性認知症、前頭側頭葉型認知症、てんかん原因検索などに力を発揮しています。

●骨密度検査

骨密度を保つことは、高齢者の日常生活動作を円滑にするために欠かせません。そのためには、まずご自分の骨密度の状態を知ることが大切です。

●マンモグラフィ

乳がん診断に役立ちます。

●RI (核医学) 検査

骨シンチグラフィ、脳血流検査による脳血管障害、認知症診断、さらにはパーキンソン病国際診断基準に記載されているMIBG心筋シンチグラフィ、ダツトスキャンなどを日常検査として施行しています。

●PET (陽電子放出断層撮影) 検査

18F-FDGという薬剤を用い、癌や炎症病巣を特定し、良悪性の鑑別、転移病巣の有無、治療効果判定、再発の有無、さらにはアルツハイマー病などの認知症疾患、てんかん、大型血管炎などの診断にも役立ちます。

13N-アンモニアを用いて、他の検査では診断がつかない虚血性心疾患の診断に用いられます。新たに保険適用検査となって活用が期待されています。

*アルツハイマー病治療薬レカネマブ適応判断のためアミロイドPETが保険収載されました。まず、レカネマブ外来受診をお願いしております。

当科の最新情報はホームページでご確認ください。



臨床研修医 / 専門臨床研修医

臨床研修医

氏名	かな	コース
安部 理子	あべ さとこ	ジュニア (1年次) (医科)
井上 周平	いのうえ しゅうへい	ジュニア (1年次) (医科)
賀代 千聡	かしろ ちさと	ジュニア (1年次) (医科)
草間 亮佑	くさま りょうすけ	ジュニア (1年次) (医科)
酒井 力輝	さかい りき	ジュニア (1年次) (医科)
壺田 知暉	つぼた ともき	ジュニア (1年次) (医科)
向井 緑	むかい みどり	ジュニア (1年次) (医科)
守田 脩究	もりた しゅく	ジュニア (1年次) (医科)
森野 太揮	もりの たいき	ジュニア (1年次) (医科)
米澤 毅人	よねざわ たけと	ジュニア (1年次) (医科)
武山 桂己	たけやま けいき	ジュニア (1年次) (歯科)
岡田 璃瀬	おかだ りせ	ジュニア (2年次) (医科)
鈴木 淳史	すずき あつし	ジュニア (2年次) (医科)
中山 英雅	なかやま ひでのり	ジュニア (2年次) (医科)
林 利樹	はやし としき	ジュニア (2年次) (医科)
孫田 皓康	まごた ひろやす	ジュニア (2年次) (医科)
宮内 祐弥	みやうち まさや	ジュニア (2年次) (医科)
吉井 元	よしい げん	ジュニア (2年次) (医科)
和田 都花	わだ みやか	ジュニア (2年次) (医科)
佐藤 はるか	さとう はるか	ジュニア (2年次) (歯科)

専門臨床研修医

秋富 友佑	あきとみ ゆうすけ	シニア (内科)
井沢 理乃	いざわ あやの	シニア (内科)
太田 由衣	おおた ゆい	シニア (内科)
荻久保 雄高	おぎくぼ ゆたか	シニア (内科)
小森 雄太	こもり ゆうた	シニア (内科)
全 秀剛	ぜん しゅうご	シニア (内科)
田中 健太	たなか けんた	シニア (内科)
中野 匡人	なかの まさと	シニア (内科)
羽野 博之	はの ひろゆき	シニア (内科)
林 拓海	はやし たくみ	シニア (内科)
福島 薫子	ふくしま かおるこ	シニア (内科)
藤本 博子	ふじもと ひろこ	シニア (内科)
舟川 開	ふなかわ かい	シニア (内科)
麓 隆太郎	ふもと りゅうたろう	シニア (内科)
堀越 裕介	ほりこし ゆうすけ	シニア (内科)
正谷 一石	まさたに かずし	シニア (内科)
吉田 敬士	よしだ けいし	シニア (内科)
米山 雅彦	よねやま まさひこ	シニア (内科)
荒井 奈緒子	あらい なおこ	シニア (外科)
江本 雛子	えもと ひなこ	シニア (外科)
高澤 航輝	たかざわ こうき	シニア (外科)
守田 静樺	もりた しずか	シニア (外科)
竹中 美帆	たけなか みほ	シニア (眼科)
田中 杏	たなか あんず	シニア (眼科)
福尾 美和子	ふくお みわこ	シニア (眼科)
斉藤 有輝	さいとう ゆうき	シニア (整形外科)
成田 友加里	なりた ゆかり	シニア (精神科)
神野 聖也	かみの せいや	シニア (病理診断科)
永坂 拓也	ながさか たくや	シニア (病理診断科)
勝俣 恵	かつまた めぐみ	シニア (放射線科)

7 医療連携係／連携医制度のご案内

●医療連携係とは

地域の皆さまに安心・満足してご利用いただける病院として、地域のかかりつけの先生方をはじめ、様々な医療機関を“つなぐ”窓口です。医療を必要とされる方がスムーズかつ適切な医療サービスをお受けいただけるよう、地域と当センターをつなぐ架け橋となり、円滑な前方連携を図ることを役割としております。

●主な業務内容

- 地域医療機関からの各種お問い合わせ窓口
- 外来診察／検査の予約調整
- 入院（緊急を除く）／転院に関するご相談・調整
- 医療機関への各種返書管理
- 各種研修会／公開講座・CPC等の開催
- 広報（診療科のご案内・地域連携NEWS等の作成）
- かかりつけ医紹介窓口による逆紹介
- 各種統計業務
- その他医療連携に関する調整業務



●お問い合わせ

医療連携係	☎ 03-3579-6963 (直通電話) 📠 03-3964-1392 (直通FAX)
-------	---

平日 9:00～17:00 まで
(土日祝日／年末年始を除く)

●連携医とは

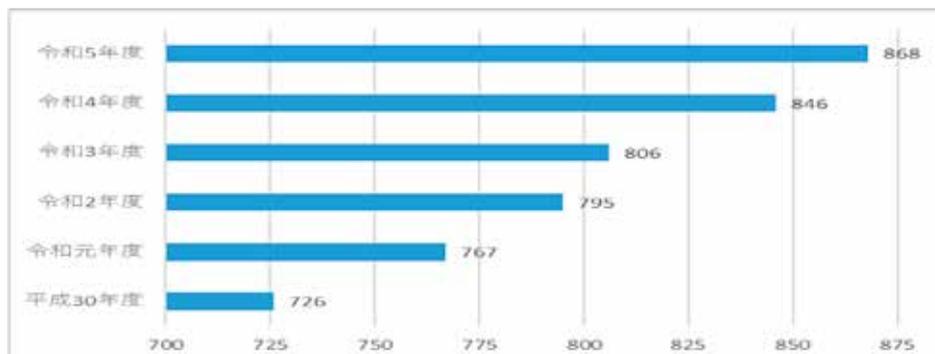
当センターでは、地域の医療機関の先生方と相互に連携し、適切な役割分担のもと、患者さんに一貫性のある良質な医療を提供しております。なかでも当センターとより緊密な連携を結んでいるのが連携医です。

連携医の先生方は、地域での豊富な診療経験を持つ医師です。かかりつけ医として日頃から患者さんの健康状態を詳しく把握し、定期的な検査や病気の初期治療、慢性疾患の治療を行います。病気になったときや健康管理上の相談やアドバイス等も行っています。

当センターは、急性疾患または重症な患者さんの治療を主とする急性期病院として、連携医からの紹介のもと、より詳しい検査や入院、手術等の専門的な診断・治療を行ってまいります。

このように、地域の各医療機関がそれぞれ役割分担し、相互に連携して患者さんの診療にあたることで、より多くの患者さんに質の高い医療を効率的に提供することが可能となります。

●連携医療機関数の推移



連携医登録方法については、
こちらをご確認ください→



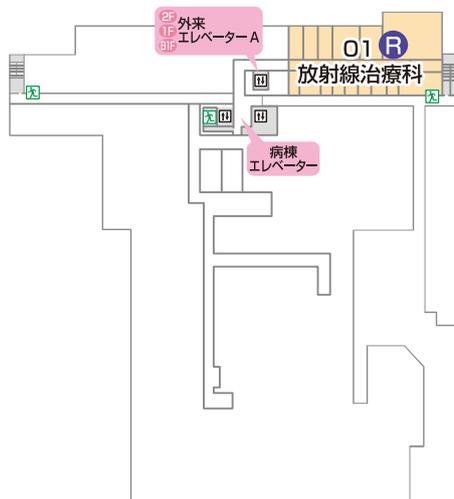
8 施設のご案内

全体図

2024年5月1日現在

西 West		東 East	
12F	緩和ケア病棟		
11F	病棟	病棟	
10F	脳卒中ケアユニット(SCU)	病棟	
9F	病棟	病棟	
8F	病棟	病棟	
7F	病棟	病棟	
6F	地域包括ケア病棟	病棟	
5F	病棟	病棟	
4F	特定集中治療室(ICU・CCU)、麻酔科、中央手術室、血管造影室、病理検査室		
3F	リハビリテーション科、透析センター、老年学情報センター		
2F	外来、外来化学療法室、中央処置室、コンビニ、レストラン、養育院・渋沢記念コーナー		
1F	外来、採血・採尿室、放射線診断科、救急診療部、カフェ、入退院支援室(在宅医療・福祉相談係、医療連携係)		
MB B1F	放射線治療科、リニアック室、サイクロトロン		

B1F



R：放射線治療科

1 F



A: カフェ



B: 救急診療受付



C: 総合受付



D: 外来診療受付



E: 渋沢栄一像



F: ビオトープ

2 F



G: 食堂



H: 売店



I: 養育院・渋沢記念コーナー

3 F



J: リハビリテーション科



K: 屋上庭園

4 F

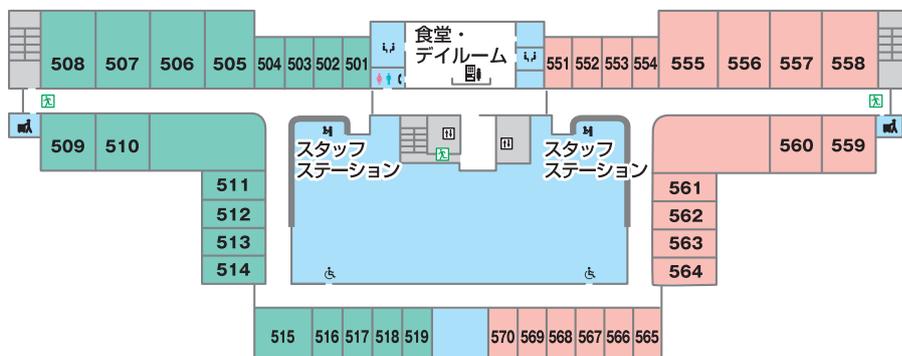


L：特定集中治療室



M：中央手術室／血管造影室

5 F ~ 11 F (10F 東側は脳卒中ケアユニット (SCU))



食堂デイルーム



特別室 S



個室 B



個室 C



個室 D



多床室

12 F



O：緩和ケア病床



P：家族控室



Q：屋上庭園

